

事務事業及び予算の執行実績(令和4年度分)  
(一部、令和5年度分を含む)

静岡県立東部特別支援学校

## 目 次

事務事業の概要（本 校）	1
（伊 東 分 校）	15
（伊豆高原分校）	26
事務執行の根拠法令調	36
学校施設の概要	37
在籍生徒調	42
入学志願者及び入学者数調	47
卒業生の動向調	49
生徒の状況	52
特別支援学校における生産物売払調	56
保管現金有高調	57
預金調	57
郵券等受払調	58
材料品受払調	59
委託料等歳出予算執行状況節別集計表	60
委託料等歳出予算執行状況節別集計表	60
委託料に関する調	61
負担金支出調	67
建築工事調	70
公有財産調	72
借地借家等調	74
事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	75
行政財産貸付・使用許可調	76
普通財産・借受財産等貸付調	76
職員公舎管理状況調	77
主要備品調	78
職員調	79
職員の年齢調	85
健康管理	86

## 事務事業の概要（本校）

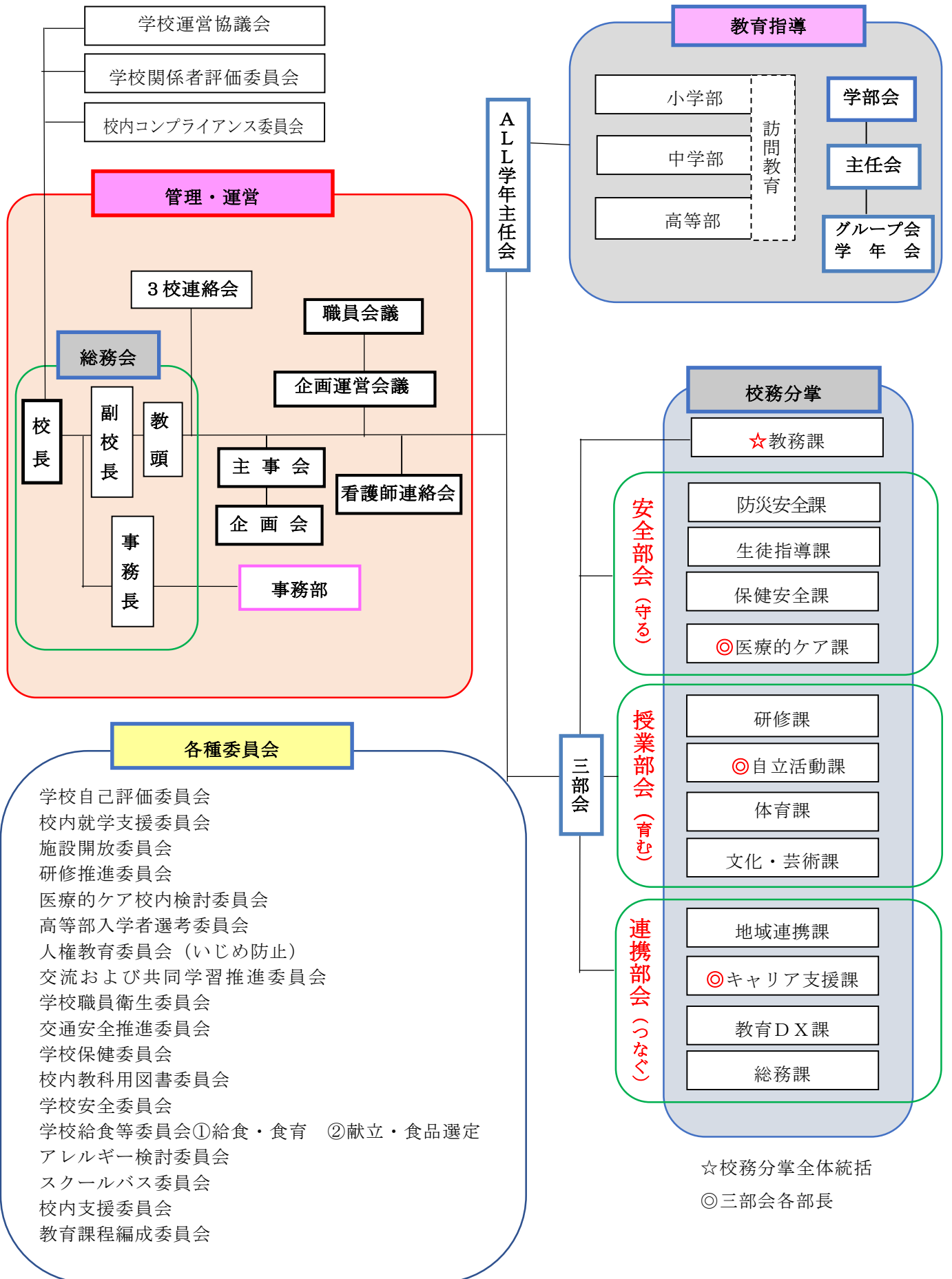
### 1 概況

#### (1) 学校の沿革

- 昭和40. 9. 1 伊豆療護園開設に伴い、韮山小学校、同中学校の分教場として教育を開始
41. 4. 1 静岡県立静岡養護学校東部分校となる。
4. 11 伊豆療護園の施設を借用して開校式、入学式を挙
5. 30 プレハブ仮校舎完成
42. 3. 1 第1次学校敷地買収 (5,044㎡)
43. 4. 1 通学生の入学許可
5. 4 校舎起工式を挙
7. 13 第2次学校敷地買収 (1,169㎡)
10. 31 校舎第1期工事完成 (延648㎡)
44. 3. 25 校舎第2期工事完成 (延945.31㎡)、学校番地 韮山町寺家235番地に全面移転
12. 12 校舎第3期工事完成 (延748.26㎡)
45. 2. 3 校舎落成式を挙
46. 10. 5 スクールバス運行開始
48. 3. 31 第3次学校敷地買収 (1,021㎡)
49. 4. 1 校名を静岡県立東部養護学校に変更、独立校となる。
11. 22 独立記念式を挙
51. 3. 25 校舎第2棟、第3棟増築工事完成 (延336㎡)
54. 3. 9 第4棟校舎工事完成 (延1,226.3㎡)
- 旧棟一部改造
4. 1 養護学校教育義務制実施に伴い、川奈分校、伊豆つくし分教室、駿豆分教室が移管  
されるとともに、伊豆半島全域の在宅児に対する訪問教育を担当
5. 29 校舎増改築完成
56. 3. 30 第4次学校敷地買収 (2,058㎡)
57. 2. 4 運動場造成工事完成
3. 20 校長住宅完成 (延126.42㎡)
58. 3. 31 グリーンバンク緑化事業実施
4. 1 高等部設置
59. 2. 18 高等部校舎完成 (延563.50㎡)
60. 3. 11 体育館完成 (延603.55㎡)
61. 11. 16 創立20周年記念行事を挙
62. 3. 31 第1棟、第2棟、第3棟のトイレ改修工事完成
4. 8 多機能スクールバス運行開始
63. 9. 14 第1棟外装工事、音楽室内装工事完成
- 平成 元. 8. 31 第2棟、第3棟外装工事完成
3. 1. 16 第5次学校敷地買収 (1,021㎡)
3. 20 運動場造成工事完成
4. 12. 18 給食配膳室完成 (延62.88㎡)
5. 1. 8 学校給食開始
7. 4. 1 多機能スクールバス更新
8. 10. 31 創立30周年記念行事を挙
15. 9. 1 スクールバス増車（マイクロバス22人定員）により、2台体制で運行開始
9. 12 体育館天井落下防止工事完了
16. 4. 1 多機能スクールバス更新

- 17. 9. 30 2－3棟、3－4棟耐震補強工事完成
- 18. 9. 15 第2棟トイレ他改修工事完成
- 18. 11. 11 創立40周年記念誌発行
- 19. 2. 28 公共下水道接続工事完成
- 20. 4. 1 静岡県立東部特別支援学校と校名変更
- 22. 9. 17 第1棟、3棟トイレ改修工事、外来者用トイレ設置工事完成
- 24. 3. 8 中型スクールバス更新
- 24. 3. 9 大型スクールバス更新
- 26. 1. 14 校舎を駿豆学園に無償譲渡
- 28. 11. 25 創立50周年記念行事を挙げる
- 30. 11. 13 新校舎落成式を挙げる
- 令和 2. 4. 1 大型スクールバス更新
- 3. 3. 31 川奈分校廃止
- 3. 4. 1 伊豆下田分校、伊豆松崎分校の本校を静岡県立伊豆の国特別支援学校に変更
- 3. 4. 1 中型スクールバス更新
- 令和 5. 4. 1 伊豆高原分校移転

(2) 組織図



## 2 目指す学校像

### (1) 教育目標 「元気に たくましく 豊かな人」

【体】健康で生き生きと活動する力を育む

【知】確かな学力を身に付け、たくましく生きる力を育む

【徳】他の人を思いやり、物事に感動する豊かな心を育む

教育目標の具現化に向けて、児童生徒の生命と健康を尊重し、個性の伸長と自己実現を目指す教育に努める。そのために、①安心と信頼、②学ぶ喜び、③地域貢献、④働きがい  
を学校づくりの4つの視点に掲げ学校づくりを進める。

### (2) 目標具現化の柱

ア〈守る〉安全で安心な教育環境作り

(ア) 安全で機能的な学校環境の整備、体制の強化

(イ) 人権を尊重する教育の充実

イ〈育む〉授業の充実を図り、確かな学力や豊かな心と生きる力の育成

(ア) 生きる力を身につける学びの充実

(イ) 専門性をいかした肢体不自由教育の向上

ウ〈つなぐ〉児童生徒の学びと生活を支える連携づくり

(ア) 肢体不自由特別支援学校としてのセンター的機能の充実

(イ) 地域に根ざし、共生社会を構築するためのつながりをつくる取組の推進

エ〈高める〉教職員が互いに支えあい高めあい働きやすい環境づくり

(ア) 信頼される学校づくりのための意識向上

(イ) 働きがいのある学校にするための相互支援と業務改善の推進

## 3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

### (1) 令和4年度の取組目標への評価及び成果と課題

ア〈守る〉安全で安心な教育環境作り

(ア) 命を預かり守る学校の安全体制の強化

取組目標	評価	成果と課題
命を守る緊急時対応力の向上	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急時の様々な場面を想定した訓練を、課題を見直し改善を図りながら行うことで教員の対応力につながった。訓練で緊急体制を保護者に伝え、理解と協力を求めることができた。</li> <li>実践的な訓練を継続し、医療的ケアなど、個別的な対応への体制づくりにつなげる。</li> </ul>
防災・防犯体制の確立	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>消防署、警察署の指導助言を含む訓練の実施により、役割の確認や具体的な対応、初発の行動等について教員の認識力や行動力を高めることができた。</li> <li>今後も外部講師を活用し、さらに想定を拡大しての対応訓練（移動困難、風雨水害）を実施する。</li> </ul>
安全・安心な医療的ケアの実施	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>医ケア研修や緊急時対応訓練が看護師、保護者との連携、教員間の連絡体制の見直し、強化につながった。</li> <li>インシデントの共有は日頃の医療的ケア行為の改善につながった。</li> <li>具体的対応力につなげる研修を継続的に実施する。</li> </ul>

(イ) 安全で機能的な学校環境の整備

取組目標	評価	成果と課題
児童生徒が安心・安全	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒヤリハット週間、安全点検週間の実施は、教員の安全な環境</li> </ul>

に、主体的に活動できるよう、人的・物的環境の整備		整備への意識の高揚につながった。教育活動中の事故0件。 ・ヒヤリハット事例の防止策については次年度へも引継ぎ、安全な環境整備への取組を継続する。
--------------------------	--	---

(ウ) 人権を尊重する教育の充実

取組目標	評価	成果と課題
子どもの人格と人権を尊重した教育の推進	A	・人権研修や月1回の人権ミーティング、全職員アンケートの実施により、名前の呼び方や日頃の子どもの肯定的な関わり方についての意識化を進めることができた。 ・今後も人権意識の高揚を図る継続的な取組を行う。
互いを思いやり認め合う心と自己肯定感を高める指導充実	A	・学部を超えた縦割り活動で、互いを褒め合う場面が設定され、教員が子どもたちの笑顔をさらに具体的に引き出そうとする相乗効果がみられた。 ・引き続き感染症対応時の活動設定の工夫をする。

イ <育む>授業の充実を図り、確かな学力や豊かな生きる力の育成

(ア) 学力・生きる力を身につける学習活動

取組目標	評価	成果と課題
キャリア発達を促す系統的・段階的な教育の充実	A	・キャリア発達学習会（年3回）での学部を超えた協議の場が子どもたちの将来の姿につながる指導について具体的に認識を深めるきっかけになった。 ・今後も学校全体での共通認識や理解の深化を図りたい。
できる・分かる喜びのある学びの充実	A	・ICT研修、ミニ学習会の実施により児童生徒のタブレット端末の使用、教員のICT活用の意識が前進した。 ・情報教育の環境整備をさらに進め、幅広い児童生徒の実態に応じた活用についても他校の実践を参考にしながら推進する。 ・各コースでの「児童生徒の目指す姿」の実現に向けた授業研究の実施では、テーマをもった学習や目標の設定、子どもの実態の捉えにより学習場面で意欲的な子どもの姿を引き出すことができた。 ・教員同士が授業を見合える設定の工夫、学び合いの場の確保を引き続き行う。

(イ) たくましさと人や物にかかわる力を育む学習活動

取組目標	評価	成果と課題
健全で健康な心と体の保持・増進	A	・体育の授業実践の紹介、体育教具の使用方法紹介等、提供される資料が参考となり、体育の授業が充実した。資料を活用し感染症や熱中症予防をすることができた。 ・栄養教諭と連携した積極的な取組で食育の授業実践につなげることができた。（延べ32回） ・教材の共有など、継続しながら取組の工夫を行う。

挑戦する心を育む学びの充実	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>働きかけや教材の工夫等、教員間での情報共有を年2回設定したことにより、児童生徒の実態に応じた働きかけの意識化、具体的活動につなげるための教材の工夫が図られた。</li> </ul>
豊かな情操を育む学びの推進	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「児童生徒1人10冊以上」と読書活動の推進を進め、授業での大型絵本の活用、ビンゴカード等教材の工夫、家庭での読書の呼びかけ等により全般的な読書の推進につながった。</li> <li>休み時間の読書、外部ボランティアやICT端末の活用など今後も進める。</li> </ul>

(ウ) 肢体不自由教育の専門性の向上

取組目標	評価	成果と課題
専門性を高める授業づくりの充実	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自立活動だより」（週1回）での発信や学部学習会の実施により肢体不自由教育について理解が深まり、学びを授業実践に生かすことで、教員が学びの良さを実感できた。</li> <li>夏季研修や参考資料等を有効に活用したり、実践的な内容をより多く取り入れたりして、専門性の向上を目指す取組を進める。</li> </ul>

ウ <つなぐ>児童生徒の学びと生活を支える連携づくり

(ア) 肢体不自由特別支援学校としてのセンター的機能の充実

取組目標	評価	成果と課題
児童生徒の学びと生活を支える関係機関との連携の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任、学部、担当分掌課と連携を図りながら、校内におけるニーズに必要な支援をつなげることができた。（ケース会議12回、教育相談7回、校内支援会議2回）</li> <li>迅速な対応、会議の効率化を図りながら、地域や関係機関との一層の連携体制を進め、支援の強化につなげる</li> </ul>
適切な就学及び学びの充実に資する支援連携の取組推進	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>就学前幼児教室5回実施しすべての保護者からよい評価を得た。体験入学の保護者面談も合わせて実施し保護者負担を軽減した。</li> <li>年度初めに学校説明をする等、ニーズに応じ工夫する。</li> </ul>

(イ) 地域に根ざし、共生社会を構築するためのつながりをつくる取組推進

取組目標	評価	成果と課題
交流及び共同学習の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校間交流はコロナ禍のため直接交流は高等部のみ2回。間接交流（11回）では、手紙や映像のやりとり、栽培した植物を送り合う等を実施し児童生徒及び教員が交流の良さを感じることができた。</li> <li>居住地校交流は26人実施。</li> <li>直接交流は地域の感染状況に配慮しながら実施する。内</li> </ul>



		容やオンライン活用等の方法を工夫し、障害者理解についての視点ももちながら引き続き交流を実施したい。
肢体不自由教育に関する理解の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校便りの配布・回覧 40 箇所程。信用金庫店舗での作品展、HPでの作品掲載・地区のコミ広報誌への記事掲載を実施。</li> <li>・HPでの受け止め側からの視点見直し。デジタル情報発信の幅を個人情報の取扱動画等の活用検討。</li> </ul>

エ <高める>教職員が互いに支えあい高めあう働きやすい環境づくり

取組目標	評価	成果と課題
所属意識の向上による自律した行動	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不祥事 0 件、加害交通事故 0 件</li> <li>・アルコールチェッカーの活用、定期的な呼びかけ等により安全運転への意識の継続が図られた。</li> <li>・不祥事根絶の取組については、県の取組強化月間や夏季研修でグループや個人での研修を実施し意識化できた。</li> </ul>
お互いを支え合う関係づくりと働きやすい職場環境の構築	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後の時間運用で学年、学部裁量の時間を月 1～2 回確保、会議時間 1 時間以内を目標とした。教員間で指導体制や放課後の運用等の工夫など、改善点の糸口を見出す視点をもつことができた。</li> <li>・心理的な安定を図りながら、互いに働きがいを感じる職場づくりを全職員で進めていきたい。</li> </ul>

(2) 令和 5 年度の取組目標・達成方法・成果目標

ア <守る>安全で安心な教育環境作り

(ア) 安全で機能的な学校環境の整備、体制の強化

取組目標	達成方法	成果目標
命を守る緊急時対応力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の教師が適切な判断と行動ができる実践的なマニュアルに基づいた効果的な訓練の実施 (年 9 回)</li> <li>・ヒヤリハット (インシデント) 情報の共有とタイムリーな注意喚起 (月 1 回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心して学校生活を送ることができる と答える児童生徒 100%</li> <li>・教育活動中の事故 (インシデント) 件数前年比 80%</li> </ul>
防災・防犯体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的な訓練 (外部講師の指導助言による火災訓練等)、防災学習の実施 (年 6 回)</li> <li>・安全点検の実施 (月 1 回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な身を守る行動がわかった、落ち着いて訓練に参加できた児童生徒 90% 以上</li> </ul>

(イ) 人権を尊重する教育の充実

取組目標	達成方法	成果目標
子どもの人格と人権を尊重した教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活アンケートや学校評価を実施し、お互いの人権や人格</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分と仲間を大切にしていると感じることができ</li> </ul>

	を尊重していることを確認する。(年2回) ・校内人権教育研修の実施(年1回)	た児童生徒、保護者90%以上
--	---	----------------

イ <育む> 授業の充実を図り、確かな学力や豊かな心と生きる力の育成

(ア) 生きる力を身につける学びの充実

取組目標	達成方法	成果目標
キャリア発達を促す系統的・段階的な教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア発達に関する研修や施設見学の実施(年3回以上)</li> <li>・キャリアパスポートの実践紹介(各学部1回以上)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部の目指す姿に近づくことができた児童生徒90%以上</li> </ul>
できる・分かる喜びのある学びの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT研修やミニ学習会を年3回以上行う。</li> <li>・コースに掲げた「目指す姿」の実現に向けた授業実践と情報共有。(グループ単位の授業づくりを通年、公開授業年3回以上、中心授業各コース年1回)</li> <li>・各学部の授業実践や体育用具の使い方などを掲示板に年10回以上掲載し情報を提供する。</li> <li>・特別支援学校児童生徒の音楽指導や授業作りについての学習会を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内でICTを活用したことによって学習意欲が向上した児童生徒90%以上</li> <li>・各コーステーマに掲げた「目指す姿」に迫ることができた児童生徒90%以上</li> <li>・教師や友達と一緒に楽しく体を動かすことができた児童生徒90%以上</li> <li>・好きな歌や器楽、身体表現を楽しく行うことができた児童生徒90%以上</li> </ul>

(イ) 専門性をいかした肢体不自由教育の向上

取組目標	達成方法	成果目標
専門性をいかした授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態把握や指導の工夫や悩みを共有し、授業づくりや支援のヒントを得られる場の設定。(学習会を年2回以上実施、夏季の教材展示)</li> <li>・児童生徒の実態や課題について学び合ったり話し合ったりする場の設定(流れ図を使用した実態把握、掲示板を活用した情報提供、センター他との連携など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「分かって取り組む」「得意な動きで取り組む」など、自身に合った学びができた児童生徒90%以上</li> <li>・自身の実態に合った目標が達成できた児童生徒90%以上</li> </ul>

ウ <つなぐ> 児童生徒の学びと生活を支える連携づくり

(ア) 肢体不自由特別支援学校としてのセンター的機能の充実

取組目標	達成方法	成果目標
児童生徒の学びと生活を支える関係機関との連携の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後の生活に関わる関係機関の情報提供、発信(掲示物、お便り等での情報発信年4回以上)</li> <li>・学校、保護者、関係機関の連携を構築する会議や委員会の実施</li> <li>・放課後等デイサービス引き渡しカードの作成と活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後の生活に関わる関係機関について知っている児童生徒、保護者90%以上</li> <li>・関係機関との連携が深まり、児童生徒の学びと生活が支えられたと感じる保護者・教員80%以上</li> </ul>

適切な就学及び学びの充実に資する支援連携の取組推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児教室「ひまわり教室」の実施（年5回）</li> <li>・ 在園している保育園や事業所とのケース会議の実施</li> </ul>	・ 学校との連携がとれたと感じる参加保護者80%以上
---------------------------	---	----------------------------

(イ) 地域に根ざし、共生社会を構築するためのつながりをつくる取組推進

取組目標	達成方法	成果目標
交流及び共同学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同世代の仲間と集団で活動することを経験できるよう、学校間交流や交流籍校交流を計画的に実施する。 (各学年、希望者年1回以上)</li> </ul>	・ 交流を楽しみに、共に学ぶことができた児童生徒100%
肢体不自由教育に関する理解の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各学部で毎月1回以上ホームページを更新し、行事等の取組を情報発信する。</li> <li>・ 学校だよりを年4回発行し、保護者や地域の方、関係機関等に配布する。</li> </ul>	・ 行事を中心に学校の取組が分かったと答える保護者80%以上

エ <高める> 教職員が互いに支えあい高めあい働きやすい環境づくり

(ア) 信頼される学校づくりのための意識向上

取組目標	達成方法	成果目標
所属意識の向上による自律した行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不祥事根絶取組計画による研修月1回実施</li> <li>・ 年度始めに個別の指導計画の作成方法や管理活用に関する研修を行う。</li> <li>・ 前後期各1回、個別ファイルの点検を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不祥事0件、加害交通事故・違反案件0件</li> <li>・ 個別の指導計画を適切に管理活用できたと答える教員100%</li> </ul>

(イ) 働きがいのある学校にするための相互支援と業務改善の推進

取組目標	達成方法	成果目標
働きやすい職場環境の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「自分らしい働き方」のキーワードの設定とその振り返り年3回</li> <li>・ 学年、学部裁量の時間の確保（月2回）</li> <li>・ 公文書作成等の研修の実施（年1回）とマニュアルの作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「自分らしく働いている」と答える職員100%</li> <li>・ 公文書等の作成について理解が深まったと答える教員90%以上</li> </ul>

4 監査対象期間における特色ある取組

年度	取組概要	成果及び課題
令和4	安全・安心な医療的ケアの実施 ・ 計画的で効果的な研修や訓練の実施。	・ 年度当初、医療的ケアを実施できる体制を例年より短期間で確立することができ、保護者の待機期間が短くなり負担軽減となった。

	<p>命を守る緊急時対応力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・段階的・計画的に緊急時対応訓練を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時の様々な場面を想定した訓練を、課題を見直し、改善を図りながら行うことで即応した適切な判断と行動を理解し、教員の対応力につながった。</li> </ul>
	<p>交流活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ZOOMアプリを使用したり直接スクールバスで相手校を訪れたりして交流活動を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの感染状況に応じて、安全に配慮した形での学校間交流を行った。(13回)手紙や映像のやりとり、栽培した植物を送り合う等を実施し児童生徒及び教員が交流の良さを感じることができた。</li> </ul>
	<p>SDGsの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員で取り組むことができそうなことを募集し、省エネをテーマに取り組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エアコンの使用方法など、省エネを意識し前向きに取り組むことができた。また、生徒も巻き込んで生徒の学習活動とすることができた。</li> </ul>
令和5	<p>命を守る緊急時対応力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的・効果的な訓練を年9回実施する。</li> <li>・ヒヤリハット(インシデント)情報の共有と注意喚起を速やかに行い、安全管理に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体・各学部で8月までに緊急時対応訓練を実施。計6回。医療的ケア緊急時対応訓練を2回実施。一人一人の教員が適切な判断ができるよう実践的な訓練を設定している。</li> <li>・ヒヤリハット情報の共有と注意喚起の報告を月1回実施。</li> </ul>
	<p>地域との交流活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・韮山地区特別支援教育推進協議会が発足し、これまでの交流活動を近隣学校や地域の団体と整理し体制づくりを進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度より韮山地区の韮山小、韮山南小、韮山中、伊豆の国特支、東部特支の5校で一体となって計画を共有し地区の特別支援教育を推進する。4月に第1回の協議を行った。</li> </ul>
	<p>SDGsの取り組みの継続</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エアコンの効果的な使用方法などを職員間で共有し今年度も省エネに取り組んでいる。年度後半は児童生徒の取組にも広げていく。</li> </ul>

5 教職員について（本校）

(1) 異動状況

(単位：人)

職名	本務職員												臨時・会計年度任用職員					小計	計	
	教育職員						行政職員						教諭・任期付・臨時	主事・臨時	医療的ケア看護職員	非常勤労務職員・非常勤嘱託員	心理専門員			
	校長	副校長	教頭	教諭	再任用教諭	養護教諭	栄養教諭	事務長	主査	主任	主事	技能長								主任技能員
区分													小計							
転出		1	1	13	1		1		1				18	4					4	
退職				2	1								3	3		2	1		6	
昇任													0						0	
転入		1		8			1						10						0	
新任			1	5									6	2	1				3	
差引増減	0	0	0	△ 2	△ 2	0	0	0	△ 1	0	0	0	△ 5	△ 5	1	△ 2	△ 1	0	△ 7	△ 12

(2) 現員数（令和5年4月1日現在）

(単位：人)

職名	本務職員												臨時・会計年度任用職員					小計	計	
	教育職員						行政職員						教諭・任期付・臨時	主事・臨時	医療的ケア看護職員	非常勤労務職員・非常勤嘱託員	心理専門員			
	校長	副校長	教頭	教諭	再任用教諭	養護教諭	栄養教諭	事務長	主査	主任	主事	技能長								主任技能員
区分													小計							
男	1		1	22	2			1				1	28	1				1	2	
女		1		47	2	2	1		1	2			56	7	1	7	8	1	24	
計	1	1	1	69	4	2	1	1	1	2	0	1	84	8	1	7	9	1	26	110

(ア) 健康管理について

教職員の健康の保持増進を図り、学校教育・教育行政の円滑な実施とその成果の確保に資するため、労働安全衛生法、学校保健安全法に基づく教職員定期健康診断を実施している。

対象者全員が結核検診及び生活習慣病健診、指定年齢健診、人間ドックのいずれかを受診し、再検査の指示があった者は速やかに受診している。令和4年度においては多数いた育児休暇中の職員も、半数以上が健康診断を受けている。令和4年度の受診対象者の再検査を含む受診率は100%となっている。情報機器健診や腰痛健診では、いずれも数名の対象者が出ており、特定疾患の早期発見・早期治療に努めている。

日常的な取り組みとしては、始業前に腰痛予防のためのラジオ体操を実施しており、教員

10名程が自主的に参加している。また、職員向け保健だよりを職員トイレに掲示することで、自身の健康への関心を高めるようになってきた。職場の健康づくり支援事業については、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で制限があったため活用できなかったが、令和4年度は職員健康講座として「ゼロトレ」入門を実施し、体が楽になったという成果の声があがった。

年間を通じた健康情報の啓発やメンタルヘルスケアを行っており、教職員のストレスチェックも毎年実施している

(イ) 教職員の研修について

ア 令和4年度

(ア) 校内研修

研修目標
研修主題「児童生徒が『自ら学ぶ姿』を引き出す授業づくり～コース別テーマに則した授業づくりを通して～」に迫る研修を行い、授業力や専門性の向上を図る。
令和4年度の研修について
・各コース（各教育課程）を基本母体とし、研修テーマに迫る研究授業を行う。
研修内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各コース（各教育課程）を基本とし、学習集団のグループ編成を行う。</li> <li>・各教科を窓口を設定し、「資質・能力の三つの柱」を基にした目標設定と学習評価の在り方を検討、改善する。</li> <li>・コースごとの研修テーマに沿って、各学習グループで目標に迫るための手立てを検討し実践を行う。</li> <li>・コースごとに中心授業研究会を行い、事後研修で意見交換したり、外部講師や校内の授業づくりアドバイザーから指導助言を受けたりして授業改善につなげる。</li> <li>・「学びの可視化シート」を用いて、児童生徒の学びを指導過程に沿って見取り、目標基準に沿った学習評価を行う。</li> </ul>
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業づくりで大切にしたい視点を共有し、学習グループごとに具体的な支援の工夫を検討して実践することで、コーステーマに迫る姿を引き出すことができた。また、コース別研修は他学部の実践を知ったり、学部を超えて意見交換をしたりする機会となり、自身の実践に般化しやすい形態であったと考える。</li> <li>・評価規準（基準）の設定によって目指す姿が明確になり、同じ尺度で児童生徒のあらわれを見取り、目標の達成状況を評価することができた。また、目標の妥当性や具体的な改善案を練ることにもつながった。今後は、評価規準（基準）を実態や目標に対してさらに適切に設定したり、事後研修会の持ち方について共通理解を図ったりしていきたい。</li> <li>・コーステーマに照らし合わせて、どのような姿を目指すのか具体的に共有することが不十分であった。中心授業や公開授業の実施後には、目標に迫る姿や支援についての協議に留まらず、コーステーマに沿った振り返りを行えると良かった。</li> <li>・教員間で授業のアイデアや困り感を共有し、学び合うような機会が少なかった。また、人手や時間を確保する面で、中心授業や公開授業の参観のしにくさがあった。</li> </ul>

(イ) 専門性向上のための研修

研修の内容
<p>特別支援教育に関わる専門性を高めるための研修会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業力向上研修：各学部でニーズの高かった多面的な実態把握や、教材・教具のアイディ</li> </ul>

<p>ア、卒業後の生活に必要な力や支援などについて事例をあげて検討し、今後の指導につながる情報や考え方などが得られる研修とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自立活動研修：認知発達についての講話や、実技を交えた摂食介助の学習会を行い、知識を深める研修とする。</li> </ul>
<p>成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業力向上研修：多面的な視点から児童生徒を見ることにより困り感としてあがった課題を解決することができたり、アイデアをつなぎ合わせて実態に応じた教具を考え出したり、ワークシートを用いて情報を整理することで卒業後の生活に必要な力や支援が明確になったりするなど、今後の指導につながる学び合いができた。</li> <li>・ 自立活動研修：認知発達や摂食介助の知識について、改めて整理しつつ深めることができた。</li> <li>・ 事例を通して学ぶようにはしたものの、他の事例など実際の指導に活かせるかどうかは個人の力量に委ねられるところがある。</li> </ul>

イ 令和5年度

(ア) 校内研修

<p>研修目標</p>
<p>研修主題「児童生徒が『自ら学ぶ姿』を引き出す授業づくり～コース別テーマに則した授業づくりを通して～」に迫る研修を行い、授業力や専門性の向上を図る。</p>
<p>令和3年度の研修について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各コース（各教育課程）を基本母体とし、研修テーマに迫る研究授業を行う。</li> </ul>
<p>研修内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各コース（各教育課程）を基本とし、学習集団のグループ編成を行う。</li> <li>・ 各教科を窓口を設定し、「資質・能力の三つの柱」を基にした目標設定と学習評価の在り方を検討、改善する。</li> <li>・ コースごとの研修テーマに沿って、各学習グループで目標に迫るための手立てを検討し実践を行う。</li> <li>・ コースごとに中心授業研究会を行い、事後研修で意見交換したり、外部講師や校内の授業づくりアドバイザーから指導助言を受けたりして授業改善につなげる。</li> <li>・ 「学びの可視化シート」を用いて、児童生徒の学びを指導過程に沿って見取り、目標基準に沿った学習評価を行う。</li> </ul>
<p>成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年度の反省を活かし、各コースの目指す姿を具体的に示し、その共有機会も設定したことで、目指す姿に迫ることができる授業づくりや支援の工夫の検討が進められている。</li> <li>・ 昨年度と同様の流れで進めているため、目的や取り組み内容などが理解されており、短時間であっても目的に迫る有効な検討がなされている。</li> <li>・ 今後進めるにあたり、3観点（3つの柱）のおさえ、教科の見方・考え方、評価基準（規準）に沿った評価など、検討時に必要とされる要素の理解や共有が求められる。</li> </ul>

(イ) 専門性向上のための研修

<p>研修の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ はごろも『夢』講演会：「感覚統合から見た子ども理解と支援」という演題で、リハビリ発達支援ルーム かもん 代表の鴨下賢一氏の講演会を実施。</li> <li>・ 専門性向上を図る会：学校全体にアンケートを実施して所属教員のキャリアやニーズを把握し、それらに応じた学習会を実施。計画は各学部単位で行うが、対象は学校全体とし、学校全体の学習機会としている。 (現在、各学部で検討中。2学期以降、随時実施。)</li> <li>・ 自立活動課研修：自立活動の流れ図に関する研修を実施。</li> </ul>
---

## 6 防災対策について

### (1) 令和4年度

指導目標	
肢体不自由学校として必要な防災訓練や対策の在り方を見直し検討する。	
取組内容	成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が様々な状況に応じた防災・防犯体制が取れるように、危機管理マニュアルを周知し、訓練や研修に生かせるようにする。</li> <li>・教職員や児童生徒の防災・減災意識を高め、状況に応じた対応力や実践力が身に付くように、多角的に想定した実践的な訓練を実施する。</li> <li>・感染症対策および対応を継続して取り組む。</li> <li>・外部講師による指導や助言を仰ぎ、訓練や研修を積み重ねる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理マニュアルの見直しや改善を行い、年度初めに全体への周知を行った。</li> <li>・様々な災害を想定した訓練を年間を通して実施した。介助員や待機をしている保護者にも訓練に参加してもらい、実際に災害が起きた時を想定した動きができた。</li> <li>・外部講師を招き、児童生徒への防災講話を行った。防災教育の推進につながる取り組みを実施した。</li> </ul>
<b>課題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員、児童だけではなく、保護者や看護師など、学校全体で訓練を行い、実際に災害が起きたときに適切な対応ができるようにしていく。</li> <li>・訓練や研修を通して、危機管理マニュアルの改善、検討を行う。</li> <li>・これからも外部講師を招いて訓練や研修を行っていく。</li> </ul>	

### (2) 令和5年度

指導目標	
防災訓練や防災教育を通して、肢体不自由学校として必要な災害時の対策や支援を考える。	
取組内容	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員や児童生徒が災害時に適切な行動をとれるように、実情に応じた訓練や防災教育を行う。</li> <li>・避難訓練時に事前学習の時間を設け、防災課が作成した火災や地震の際の行動のポイントをまとめた資料を使って防災学習ができるようにした。</li> <li>・教職員が様々な状況に応じた防災・防犯体制がとれるように、危機管理マニュアルを周知し、訓練や研修を行い、行動できるようにする。</li> <li>・安心して安全な教育環境を整えるため、防災・減災に向けた取り組み（安全点検、防災学習）を日常生活に取り入れる。</li> </ul>	

## 7 学校開放について

### 令和4年度

利用団体	利用施設	利用目的	利用日数	利用者数	電気料
コスモの会 (本校同窓会)	体育館	総会、成人式	1日	40人	0円

### 令和5年度(令和5年7月31日現在)

利用団体	利用施設	利用目的	利用日数	利用者数	電気料
該当なし					



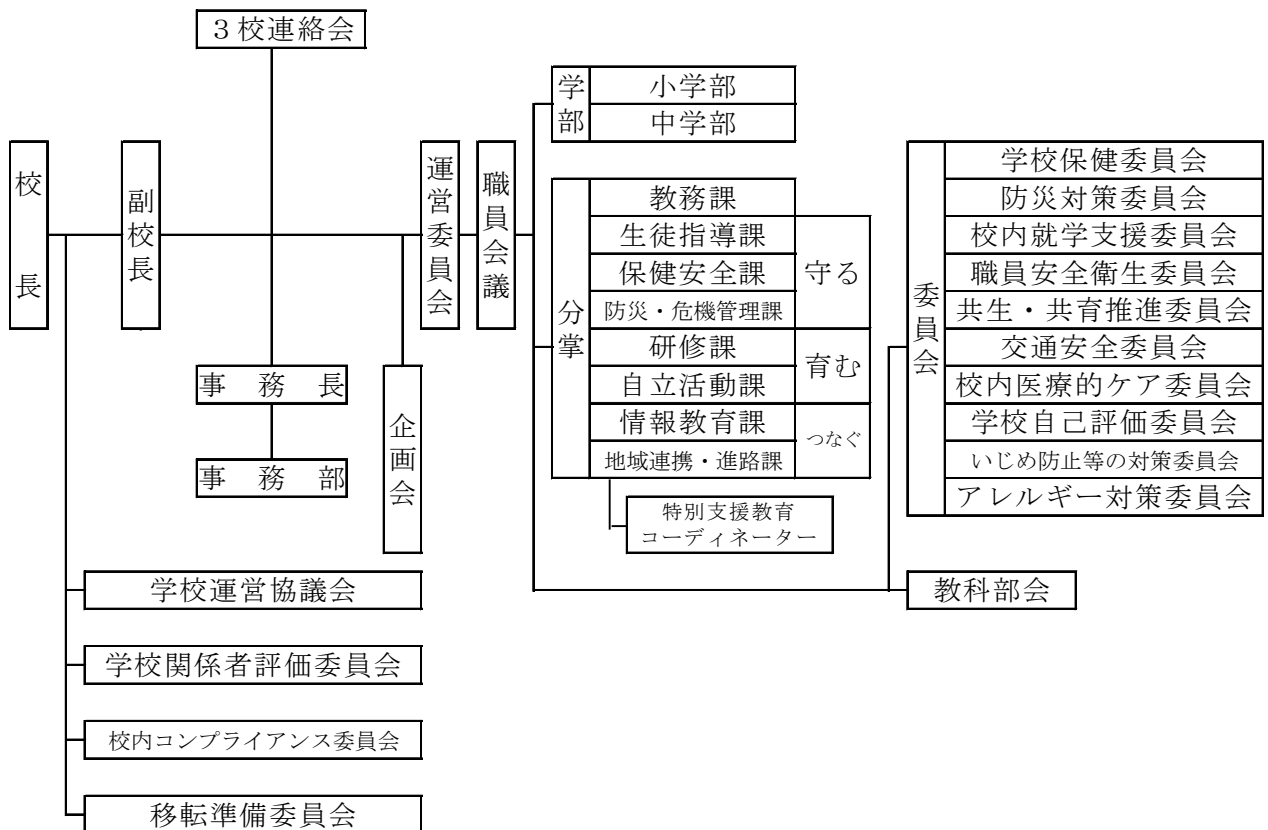
事務事業の概要（伊東分校）

1 概況

(1) 学校の沿革

- 平成11. 4. 1 静岡県立東部養護学校伊東分校として、伊東市立西小学校内（伊東市幸町1-5）に開設
- 11. 4. 7 開校式、入学式を挙
- 12. 6. 2 公用車（マイクロバス15人定員）による通学支援開始
- 14. 4. 1 分掌換えにより、伊東城ヶ崎高等学校校舎の一部（延332.16㎡）が、伊東分校高等部校舎となる。同高等学校内（伊東市八幡野1120）に開設
- 14. 4.10 高等部開設式、入学式を挙
- 17. 4. 1 公用車に代わり、業者委託によるスクールバス運行開始
- 18. 3.31 伊豆高原分校開設に伴い伊東分校高等部を廃止
- 20. 4. 1 静岡県立東部特別支援学校伊東分校と校名変更
- 20.11.29 開校10周年記念式典を挙
- 30.12. 1 開校20周年記念式典を挙
- 令和 5. 3.31 併置校の伊東市立西小学校が統合により閉校となり、単独設置となる

(2) 組織図



## 2 目指す学校像

### (1) 教育目標 「つたえあい つくりあい たかめあう人」

「つたえあい つくりあい たかめあう人」として次のような人の育成を目指す。

【知】 【徳】 豊かなコミュニケーションができる人 (知=コミュニケーションの力 徳=人や物との豊かな関わり)

【知】 【体】 つくること、はたらくことを楽しむ人 (知=はたらく力 体=元気な体づくり)

【徳】 【体】 生活する力がつき、感性や生活の質を高めていく人 (徳=感性や質 体=健康なくらし)

「あう」という言葉の中に、地域や交流校と共に活動し、共生社会の実現に寄与する学校を作るという思いを込める。教育目標の具現化に向けて、児童生徒の生命と健康を尊重し、一人一人の個性の伸長と自己実現を支援する教育に努める。そのための学校の具体像として、

①児童生徒が安心して学べる学校

②児童生徒が高い専門性に基づいた教育を受けることができる学校

③児童生徒が地域の中で育ち、教職員・組織が地域に対し役割を果たす学校

④教職員が仕事を通して自己実現できる学校

の4点を掲げ、地域社会に開かれ、保護者、地域から信頼される楽しい学校づくりを目指す。

本年度は学校移転を控えた節目の年である。分校のこれまでの歩みを基礎として、移転を機に新校地周辺の方々とも連携を深め、共生社会作りに寄与できる新たな伊東分校を創るための第一歩を踏み出したい。

### (2) 目標具現化の柱 (中期的目標)

ア <守る> 学習環境を整備・充実させ、健康で、安全・安心な学校生活を確立する。

(ア) 安全・安心を守る学校組織の機能充実

(イ) 創意工夫による学習環境の整備

(ウ) 人権を尊重する教育の充実

イ <育む> 専門性に基づく指導をとおして、自己実現に向けた教育の充実を図る。

(ア) 個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づく個に応じた指導

(イ) 研修による授業の充実と専門性の向上

(ウ) 関係諸機関との連携の強化によるキャリア教育の充実

ウ <つなぐ> 「地域の中で育つ児童生徒、地域の中で役割を果たす学校」をめざす。

(ア) 交流校における交流及び共同学習の推進

(イ) 地域と連携した交流の工夫及び共同学習、地域資源活用の推進

(ウ) 地域における特別支援教育のセンター的取組の充実

(エ) 併置校や地域との共生・共育や伊東分校の今後の在り方の検討

エ <高める> 教職員が互いに支えあい高めあい、働きやすい環境づくりに努める。

(ア) 信頼される学校づくりのための意識向上

(イ) 働きがいのある学校づくりのための学校経営見直しによる業務改善の推進

(ウ) 新校地移転を機に、全教員参画による新しい学校作りを進める

## 3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

### (1) 令和4年度の取組目標への評価及び成果と課題

ア <守る> 学習環境を充実させ、健康で、安全・安心な学校生活を確立する。

取組目標	評価	成果と課題
安全・安心を守る学校組織の機能の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健安全課の感染症対策では、分校版新しい行動様式の項目を絞り具体的標記に改めると共に、保護者向け案内の内容をイラストも用いて要点を分かりやすくした。保護者からの問い合わせが減り伝達すべき内容の理解が進んだと考える。</li> <li>緊急時連絡体制訓練を学年団で年2回行い、県の指示による変更を共通理解する場を設けマニュアルにも取り入れた。</li> <li>移転後、新校地での大規模災害へのリスク評価、避難方法の再構築が必要となる。</li> </ul>
学習環境の整備	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>いわゆるKY活動の手法により、月例安全点検の際、グループで危険予測を行い、安全な学習環境を整える取り組みを進めた。児童生徒の動きを想定し、事故を未然に防ぐよう環境を整える意識づけになった。新校地移転後の環境整備にあたり、危険予測の取り組みが生かされることが期待される。</li> <li>これまでは限られたスペースを安全に留意して工夫して使う形の学校経営だったが、今後校地・校舎面積が広くなるため、各教室の使い方の切り替えが必要。</li> </ul>
人権を尊重する教育の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権自己チェック方式からグループチェック方式に切り替えた。ファシリテーターが互いの意見を尊重しコーディネートすることで各人の思いが共有され意識向上につながった。</li> <li>年齢等による意識の違いがあるため、日常のコミュニケーションの中で相互に気をつけあう環境を醸成したい。</li> </ul>

イ <育む>専門性に基づく指導をとおして、自己実現に向けた教育の充実を図る。

取組目標	成果	成果と課題
個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づく個に応じた指導	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>個のニーズとそれに応じた専門的な指導を進めるため、PT・OTによる療育支援を利用したり自立活動研修を行ったりした。8割以上の教員が有意義であったと答えている。</li> </ul>
研修による授業の充実と専門性の向上	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学部研修や授業研究会を無理なく進めたことで、教員間の意見交換が進み児童生徒の実態把握や授業作りを話し合うことができたとの意見が多数あった。</li> <li>情報機器活用研修では、研修会を行っただけでなく、その後、情報課員が掲示板で日常的に事例を紹介したことで、教員の授業での活用機会が増えた。例えば、宿泊事前学習で、交流する相手校の生徒とZOOMで事前に自己紹介をしあい、当日、対面での交流が盛り上がるなどの成果があった。</li> </ul>
関係諸機関との連携の強化によるキャリア教育の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学部では進路先となる社会福祉機関での体験学習を行った。小学部でも環境整備活動などキャリア教育につながる学習が進められた。</li> <li>キャリアパスポートを全校で作成。中学部ではonenoteなどのアプリでこれまでの学習成果を共有・管理した。</li> <li>キャリアパスポートを日常の学習にもっと生かしていくためにはさらに研究が必要。</li> </ul>

ウ <つなぐ> 「地域の中で育つ児童生徒、地域の中で役割を果たす学校」をめざす。

取組目標	評価	成果と課題
交流校における交流および共同学習の推進	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学部では併置校との最後の合同運動会を実施でき、後期は3年ぶりに直接交流を進めることができた。中学部でも北中学校の環境整備を共に行うなど直接交流が復活した。</li> <li>・併置校から単独校への移行で、今後交流活動をどう続けていけるか具体的に計画していかなければならない。</li> </ul>
地域における交流及び共同学習、地域資源活用の推進	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の商店街とは引き続き日常的な交流を続けることができた。JR伊東駅に交通機関利用の学習で協力をいただいた。</li> <li>・移転後は商店街から遠くなってしまうため、地域資源の今後の利用方法を考えていきたい。</li> </ul>
地域における特別支援教育のセンター的取り組みの充実	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コーディネータが高等学校教員対象の講演を行った。</li> <li>・義務教育学校での協力事案が少ないことが課題である。</li> </ul>
伊東市学校再編をふまえて併置校や地域との共生共育や伊東分校の今後の在り方の検討	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北中学校とは共同での環境整備学習の成果を受け、新年度の計画もスムーズに進んでいる。</li> <li>・小学校側の移転統合により併置校の体制がまだ整わないとの理由で、小学部では年度内に移転後の交流計画を決められなかった。</li> <li>・スクールバスを利用した直接交流に加えて、ICTを活用した交流の取り組みについても具体的に検討したい。</li> </ul>

エ <高める> 教職員が互いに支えあい高めあい、働きやすい環境づくりに努める。

取組目標	評価	成果と課題
信頼される学校作りのための意識向上	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通事案対策では、今年度も、危険個所、危険につながる行動確認など具体的対策をテーマに研修を行った。</li> </ul>
働きがいのある学校づくりのための業務改善の推進	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習発表会など全校規模の行事の見直し、会議精選などに取り組み放課後の事務処理時間の拡充を図った。</li> <li>・移転業務のため、部署によっては業務が集中してしまった。事務職の業務過多も課題と思われる。</li> </ul>

(2) 令和5年度取組目標・達成方法・成果目標

ア <守る> 学習環境を整備・充実させ、健康で、安全・安心な学校生活を確立する。

取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標
安全・安心を守る学校組織の機能の充実		
安全を最優先にした新校地の環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回、複数の職員が目視で校内の安全点検を行うと共に、隔月、予防的なチェックも行う。危険個所は改善や整備を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内において児童生徒の重大事故発生がなかった。</li> <li>・計画に基づき定期的に予防的点検、環境整備が行われた。</li> </ul>
防災対応体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期前半までの間に新校地周辺の防災情報を全職員で共有し、緊急時の対応方法を確認する。</li> <li>・2学期中に新校地で児童生徒対象の災害時初期対応訓練を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月末までに全職員へ学校周辺注意個所、校内避難経路の周知が行われた。</li> <li>・2学期末までに新校地で避難訓練が実施された。</li> </ul>

人権を尊重する教育の充実		
一人一人の人権意識向上と共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年5回教員人権チェック実施。</li> <li>・生徒会が挨拶や友達との関わりなどの目標を掲げ、集会や学級活動で児童生徒が実態に応じて学習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の不適切な指導ゼロ</li> <li>・学校生活でお互いに大切にされていると考える児童生徒が100%</li> </ul>

イ <育む> 専門性に基づく指導をとおして、自己実現に向けた教育の充実を図る。

取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標
個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づく個に応じた指導		
個のニーズに応じた指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験年数の少ない教員を対象に、授業作りと改善、評価の基本的理解を目的とした学習指導要領の活用やアセスメント方法の伝達を行う。</li> <li>・移転を機に、教材教具を活用目的別に分かりやすく配置配架する。</li> <li>・Ipad やパソコンなど情報機器の活用事例を紹介し、効果的な利用を促進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員がアセスメントに基づいた国語、算数・数学、自立活動の年間指導計画を作成した。</li> <li>・個に応じた指導に校内の教材教具が役立ったと考える教員が80%以上。</li> <li>・情報機器活用で分かりやすい、楽しいと感じる児童生徒が80%以上。</li> </ul>
研修による授業の充実と専門性の向上		
情報機器を有効に活用した学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マニュアル活用を促すことで、Ipad やパソコンなど情報機器の基本的な接続や使用方法を周知し、授業への活用推進を図る。</li> <li>・各学年でIpadの活用を検討し、実践例を共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Ipadの活用方法を検討したり、研修や活用事例紹介を受けたりすることで、授業や業務の情報機器活用頻度が広がったと考える教員が8割以上になる。</li> </ul>
専門性向上のための研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領について理解を深め研修を行い、授業づくりや授業改善に生かせるようにする。</li> <li>・職員研修を生かして教員同士で学びあう環境作りを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態把握を基に学習指導要領を踏まえた授業づくりや授業改善を行うことで児童生徒の力が向上した。研修で専門性向上に役立ったとする職員が80%以上。</li> </ul>
関係諸機関との連携の強化によるキャリア教育の充実		
系統性を考えたキャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が個に応じ、主体的にキャリアパスポートを作るために、教員が実態に即した支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の学習のふりかえりにつながる、個に応じたキャリアパスポートが作成された。</li> </ul>

ウ <つなぐ> 「地域の中で育つ児童生徒、地域の中で役割を果たす学校」をめざす。

取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標
校地が離れた学校間の新たな交流方法・共同学習の工夫		
新たな方法での学校間交流推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールバスを使った直接交流と情報機器等を用いたオンラインによる交流、作品展示などの間接交流とをハイブリット形式で行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学部と伊東小学校との今後の交流計画が策定され、間接交流が開始された。</li> <li>・中学部で、環境整備等新たな共同学習が実施された。</li> </ul>
移転後の周辺地域との連携、地域資源活用の推進		
地域の分校理解推進 新たな地域資源の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺地域の方々が広く分校を理解できるよう、たよりやHP等にて発信する。地域の方との共同学習の場を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新校地周辺地域の方と共に学ぶ場が新たに企画され、湯の花商店街との交流活動も年2回継続実施された。</li> </ul>
地域のニーズに即した特別支援教育のセンター的取組の充実		

地域のニーズ把握と教育力向上の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>近隣市町教育委員会と連携し、幼児保育教育機関、小中学校、高等学校の支援ニーズを確認し、教育力向上のための支援をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域からの支援依頼に校内資源を活用して対応できた。</li> </ul>
-------------------	--	---

エ <高める> 教職員が互いに支えあい高めあい、働きやすい環境づくりに努める。

取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標
地域から信頼され、教職員にとっても働きがいのある学校を作るための業務改善		
不祥事要因の分析によるコンプライアンス研修充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>不祥事根絶に向けて所属意識を高め、定期的な注意喚起を行う。グループワーク形式の研修により、不祥事要因の分析と検討を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不祥事要因と防止のための注意点が共有され不祥事の発生がなかった。</li> <li>交通安全の注意点が共有され重大事案発生がなかった。</li> </ul>
移転考慮した学校行事等見直しと会議等時間管理徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>移転による業務増加を考慮し、学校行事の内容見直しを行う。</li> <li>会議時間は事前提示の上厳守、掲示板活用、資料事前配布、議題予告などで内容を精選する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校全体で関わる行事が2割削減され、移転事務に携わる時間が確保された。</li> <li>緊急時を除き職員会議、学部会、分掌課会 60分超なし。</li> </ul>
新校地移転を機に、全教員参画による新しい学校作りを進める		
移転に伴う教育課程・指導計画作成および改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>全職員が、所属学部、分掌内で新たな学校作りの体制を作り、全教員が役割を担う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>分掌・学部の経営計画に新校地での取組みが記述され、学校評価で、携わったと答える教員が8割以上。</li> </ul>

#### 4 監査対象期間における特色ある取組

年度	取組概要	成果及び課題
令和5	<p>学校移転に向けた「ありがとうプロジェクト」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒が、9月から学校が移転することを理解し、現校地で西小学校の児童と日常的に交流したこと、近隣の商店街などと交流してお世話になったりしたことなどをふりかえると共に、感謝を表す活動を行った。</li> <li>1) 小学部の生活単元学習や中学部の作業学習で、学校をきれいに清掃する活動を行う。中庭花壇を多くのひまわりで彩る。</li> <li>2) 中学部生徒が近隣の商店街にポスターを作成して移転のあいさつをして回る</li> <li>3) 生徒会が「ありがとうの会」を企画して学年ごと思い出を紹介、全員で記念写真を撮影したり校歌を歌ったりする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の様子は、地域の伊豆新聞社に取材を受け、同紙の第1面で大きく紹介された。関係者や近隣の方から励ましの声や移転を寂しがると声をいただいた。</li> </ul>
令和4	<p>危険予知の観点からの安全点検</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現状の伊東分校は、伊東市立西小学校の建物・校地の一部を借用した限られた中で、児童生徒の教育活動、学校運営を行っている。スペースを有効利用するための工夫や次年度の児童生徒の状況や職員数に応じた教室替配置換が毎年度末に行われるなど他校にない運用のため、過年度のチェックポイントを踏襲した定型的な点検だけでは、安全な教育環</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 学期末までに、</li> <li>1) 職員室の画用紙保管棚の固定、書類保管棚への滑り止めシート設置</li> <li>2) プレイルーム棚上部滑り止めシート設置</li> <li>3) 中庭水道台での躓き防止のため、台にペンキで注意をひきやすいよう着色</li> <li>4) 脚立等を使用しての高所作業時のルール確認 などを実施。点検での指摘事項や改善箇所などは、職員会議や掲示板で共通理</li> </ul>

<p>境、生活環境の確保に懸念もあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度は安全点検の方法を見直し、他校のものも含め過去の危険事例などを参照し視点を変えて点検する。チェック表に危険と感じたことを書く欄を設け集約し掲示板等共有すると共に、順次必要な改善を行っている。本年度の実践を下に、危険箇所の予測を行いながら移転後の校舎の安全計画策定に生かす予定である。</li> </ul>	<p>解を図った</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期職員評価等では、全教職員が安全点検を行うことで幅広い視点から危険箇所、対応等の検討をすることができた、自身が危険箇所の再認識ができたなどの意見が出た。</li> </ul>
<p>交流及び共同学習の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学部校外学習の事前学習では、訪問先の初島にある初島小・中学校と ZOOM を利用して互いの学校紹介を行った。</li> <li>・コロナ禍以降直接交流が難しい状態が続いている伊東市立北中学校とは、2学期に中学部生徒が訪問し、校舎周りの清掃活動を一緒に行う計画を立てている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ZOOM を用いた初島小・中学校との授業では、双方の生徒が互いの学校や地域について説明し、気になった点を質問しあうなどして理解を深めた。先方の生徒も分校に関心をもっている様子だった。当日は学校を訪問し交流することができた。活動設定が難しい中学校間交流だが、小規模校との目的が明確な交流という点で新しい試みであったと考える。</li> </ul>

5 教職員について（伊東分校）

(1) 異動状況

（単位：人）

職名 区分	本務職員												臨時・会計年度任用職員						小計	計				
	教育職員						行政職員						教諭・任期付・臨時	臨時養護教諭・任期付	主事・臨時	非常勤講師	医療的ケア看護職員	非常勤嘱託員			／非常勤労務職員			
	校長	副校長	教頭	教諭	再任用教諭	養護教諭	栄養教諭	事務長	主査	主任	主事	技能長										主任技能員		
転出				6	2									8									0	8
退職														0	2								2	2
昇任														0									0	0
転入				5			1		1					7									0	7
新任				2	1									3	1								1	4
差引増減	0	0	0	1	△1	0	1	0	1	0	0	0	0	2	△1	0	0	0	0	0	0	0	△1	1

(2) 現員数（令和5年4月1日現在）

（単位：人）

職名 区分	本務職員												臨時・会計年度任用職員						小計	計			
	教育職員						行政職員						教諭任期付／臨時	養護教諭任期付／臨時	主事・臨時	非常勤講師	医療的ケア看護職員	非常勤嘱託員			／非常勤労務職員		
	校長	副校長	教頭	教諭	再任用教諭	養護教諭	栄養教諭	事務長	主査	主任	主事	技能長										主任技能員	
男		1		6				1	1				9	3								3	12
女				16	1	1	1						19	5			1	1			4	11	30
計	0	1	0	22	1	1	1	0	1	1	0	0	28	8	0	0	1	1		4	14	42	

(3) 健康管理について

令和4年度に実施した結核検診及び生活習慣病健診、指定年齢健診、人間ドックの受診率は100%であった。令和5年度も、教職員の健康保持増進、学校教育、教育行政の円滑な実施のため、各種健康診断を受診している。検査結果で再検査の指示があった職員は、生活習慣を改善した後、医療機関において再検査を受けるようにしている。その他、県が実施するVDT健診、腰痛健診では、特定疾患の早期発見、早期治療に努めている。

また毎朝、職員打合せの前にストレッチ体操を実施し、怪我の予防と健康維持に努めた。熱中症予防のため、併置校移転後空いた冷房のある部屋を事務員の内務の際活用することとした。



(4) 教職員の研修について

ア 校内研修

年度	研修の目的	研修内容
令和 5	研修テーマ 「児童・生徒が思考・判断・表現できる国算数自の授業づくり パートⅢ ～日常的に授業改善を進める主体的で対話的な教師集団を目指して～」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修窓口（継続）国語・算数・数学・自立活動</li> <li>・日々の授業づくりの中の実践的の研修を継続する。年間指導計画を立てて実践し、評価・改善をして次の実践につなげていくというPDCAサイクルを軸に、日々の授業について、互いに見合い、語り合い、学び合う教師集団をめざし、自由に他学年や他学部の国語／算数・数学／自立活動の授業を参観できるようにする。また、同グループや学年・学年団の職員同士での対話機会を多く設定することとし、研修課が主に学部研修を軸としてサポートを行っていく。</li> <li>・特別支援教育の経験が浅い職員でも、児童・生徒に授業の質を保障できるように、経験豊富な職員に相談しやすい環境づくりに努め、太田ステージ評価やラーニングマップでの実態把握や☆本や教科用図書、一人一台タブレットを使用した授業づくりの推進を図っていく。</li> </ul>
令和 4	研修テーマ 「児童・生徒が思考・判断・表現できる国算数自の授業づくり パートⅡ～『つながり』の中で学ぶ姿を目指して～」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修窓口（継続）：国語・算数・数学・自立活動（小学部・中学部） 特に、実態把握に必要なアセスメントについてのさらなる研修の充実、目標や評価規準の設定について整理し、指導と評価の一体化について理解を深める、『つながり』の中で学ぶ姿を意識した工夫を凝らした授業実践の在り方など</li> <li>・評価については、夏季研修で外部講師に来校を求め、講義とグループワークで研修を行う。</li> </ul>
<p>・成果及び課題（令和4年度）</p> <p>成果・・・新学習指導要領の学習会を通して、目標設定の仕方について共通理解をはかり、系統性や段階に基づいた授業づくりを行うため、小学部中学部ともにアセスメントとして太田ステージ評価を採用して、児童・生徒の実態把握に努めた。研修課で作成した単元カードと授業カードを使って一人一授業を行ったことで、授業を行う当事者だという意識が高まり授業改善が進んだ。</p> <p>課題・・・「つながり」をキーワードに、活動内容に自然な繋がりのある授業づくりとはどうしたら良いのか、より必然性が高いと思われる学習内容の授業づくりを行うにはどうしたら良いか。さらに、生活とのつながり（日常生活、家庭生活、</p>		

	<p>社会生活、将来の生活等)を拓げるにはどうしたらよいかなどの意見が多くあがった。同時に、指導と評価のつながり、より客観的な評価、次の学習につながる形成的評価の在り方などについてももっと研修したいという意見が多かった</p>
--	---

イ 専門性向上のための研修

年度	研修の目的	研修内容
令和5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 移転業務のため夏季休業中を中心とした専門研修の実施が難しい。2学期以降、可能な学部学年を対象とし障害者スポーツ、eスポーツの児童生徒への実演を通じた研修を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県障害者スポーツ協会担当者によるボッチャ指導の講習、業者提携のミニロボを使ったボールゲームの紹介等</li> </ul>
令和4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家を招いて、知的障害や肢体不自由児教育についての具体的な研修を進める（継続）。</li> <li>・ 東部特支本校の専門研修に一部職員が参加し、伝達講習を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理学療法士・作業療法士を招き、学校での配慮事項や支援の方法を、実技や講義から学ぶ。</li> <li>・ 「感覚と運動高次化理論」「摂食嚥下についての基礎的な支援方法・工夫」についての学習会に参加、伝達講習を実施した。</li> </ul>

6 防災対策について

年度	月 日	訓練名		内 容
令和4	4月14日	火災避難訓練	西小合同	火災発生を想定、運動場への避難訓練を実施した。
	5月11日	地震津波避難訓練①	分校単独	地震発生後の大津波を想定、西小学校3階への避難訓練を行った。避難経路、避難方法を確認した。
	5月18日	防災研修① 行方不明対応訓練	分校職員	地震、火災、不審者侵入時の緊急対応マニュアル確認。児童生徒が行方不明となった場合の対応について図上訓練の形で実施した。
	6月6日 ～10日	ショート訓練期間	学部学年	学部学年の小単位で地震発生時のシェイクアウト訓練を実施した。
	6月29日	職員防災研修	分校職員	県東部危機管理局の職員による防災講話
	7月1日	不審者対応訓練 (西小合同)	西小合同	伊東警察署協力による不審者侵入を想定した訓練
	7月7日	地震津波避難訓練③	分校単独	地震発生後の大津波を想定、「界伊東」軒先の避難訓練を行った。経路、避難方法を確認した。
	8月3日	学校安全委員会 (災害時対応)	分校職員 保護者	地震や台風等で避難所運営に協力する場合や障害のある児童生徒家族の避難所での過ごし方のシュミレーション(伊東市民病院看護師=DMAT 協力)
	8月29日	171災害伝言ダイヤル訓練(保護者)	分校単独	171災害伝言ダイヤルを利用した、伝達訓練を行った。
	8月31日	保護者引渡訓練	分校単独	南海トラフ地震を想定した引渡訓練を実施
令和5	4月13日	火災避難訓練	児童生徒	火災発生を想定。運動場への避難訓練
	5月19日	地震津波訓練①	児童生徒	地震発生後の大津波を想定。校舎3Fへの避難
	5月25日	地震津波訓練② (界伊東軒先)	小学部 1・2年 児童	大津波による「界伊東」軒先への避難を行う
	9月19～ 29日	避難経路確認	教職員	移転後の校舎からの火災・地震時の避難経路を全職員で確認する
	10月5日	火災避難訓練	児童生徒	校舎からの出火を想定。グラウンドに避難。
	10月16日	地震避難訓練	児童生徒	地震を想定。体育館またはグラウンドへの避難
	12月13日 1月10日	土砂災害避難訓練 保護者引渡し訓練	児童生徒 保護者	崖地からの退避を想定 南海トラフ地震を想定した引渡訓練を実施

7 学校開放について

学校開放は実施していない。

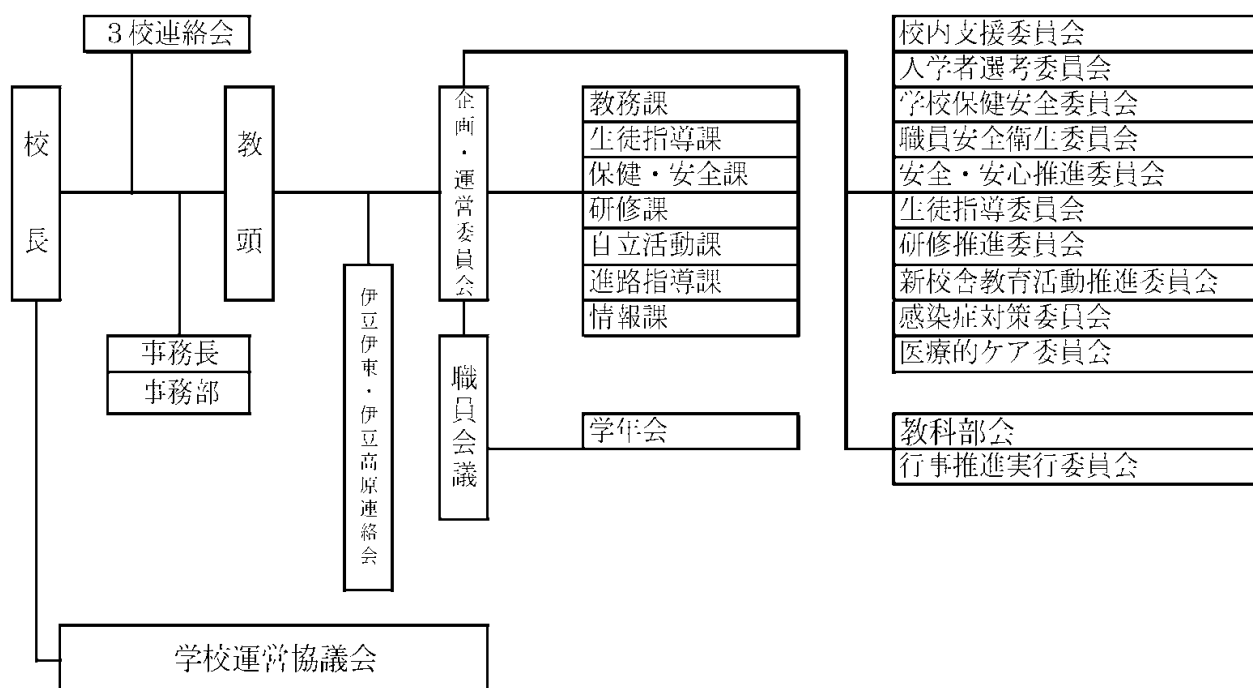
## 事務事業の概要（伊豆高原分校）

### 1 概況

#### (1) 学校の沿革

平成14. 4. 10	伊東分校高等部として開設式及び入学式
平成18. 4. 1	伊豆高原分校として開校
平成18. 4. 10	伊豆高原分校 開校式と入学式
平成20. 4. 1	静岡県立東部特別支援学校伊豆高原分校と校名変更
平成28. 12. 15	10周年記念式典
令和 5. 4. 1	併置校の静岡県立伊東高等学校城ヶ崎分校の再編整備に伴い、静岡県立伊豆伊東高等学校内併設となる

#### (2) 組織図



### 2 目指す学校像

#### (1) 教育目標「学びあい、わかりあい、高めあう人」

【体】健康で生き生きと活動する力を育む

【知】確かな学力を身に付け、たくましく生きる力を育む

【徳】他の人を思いやり、物事に感動する豊かな心を育む

教育目標の具現化に向けて、生徒の生命と健康を尊重し、個性の伸長と自己実現を目指す教育に努める。そのために、①安全に学び、安心を育てる学校、②豊かな学びのある学校、③地域とつながり共に育てる学校、④働きがいのある学校という4つの視点を掲げ、社会で生き生きと働き、互いを認め合い、豊かな感性をもって、生活の質を高められる学校づくりを目指す。

(2) 目標具現化の柱（中期的目標）

- ア <守る> 心身の健やかな成長のための安全で安心な教育環境作り  
 (ア) 安全・安心で健康に生活するための学校の安全体制の強化  
 (イ) 心身共に安定した生活をするための教育環境の整備  
 (ウ) 保護者や地域、併設校と連携し、新たな防災体制・マニュアルの構築と安全管理の強化
- イ <育む> 確かな学力や豊かに生きる力を育む授業の充実  
 (ア) 学ぼうとする力・生きる力を身につける学びの充実  
 (イ) 家庭、関係諸機関との連携強化によるキャリア教育の充実  
 (ウ) 特別支援教育の専門性の向上
- ウ <つなぐ> 学びと生活を支えるための連携  
 (ア) 校内における連携体制の構築と情報共有  
 (イ) 地域における特別支援教育のセンター的取組の充実  
 (ウ) 併設校との新しい「共生・共育」の取組の構築
- エ <高める> わかりあい高めあう働きやすい環境  
 (ア) 働きがいのある学校にするための相互支援と業務改善の実現  
 (イ) 教職員が生徒と向きあう時間の確保  
 (ウ) 信頼される学校づくりのための意識向上

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1) 令和4年度の取組目標への評価及び成果と課題

ア <守る> 安全で安心な教育環境づくり

取組目標	評価	成果と課題
安全・安心・健康を自分で考える学校の安全体制の強化	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>小さい学校なので全教職員で生徒の実態について知ることができた一方で、個々の課題が多く、対応は学年任せになりがちであった。</li> <li>with コロナに対応した教育活動について学校全体で考えていきたい。</li> </ul>
心身ともに安定した生活のための、自己調整力の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒自身の調整力をつける前に、自己理解力をつける指導も大切。</li> <li>生徒の安定の基礎のひとつに人権の尊重がある。生徒にかける言葉から気を付けたい。</li> <li>生徒を知ることによって人権意識も育っていく。</li> </ul>
保護者や地域、併設校と連携し、防災体制・マニュアルの再編、安全管理の強化	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの生徒も避難の仕方については理解でき行動できた。</li> <li>新校舎移転を控え、併設校と連携しながらできるだけ早くマニュアルの作成を行い、それに即した訓練を行う。</li> </ul>

イ <育む> 授業の充実を図り、確かな学力や豊かに生きる力の育成

取組目標	評価	成果と課題
学ぼうとする力、生きる力を身につける学びの充実	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>雇用側は、障害者の方にできる仕事を与えている。そのことが他の従業員の負担軽減にもなっていることを生徒、保護者に伝えながら、できること、得意なことを伸ばしていく。</li> <li>ICTのメリットデメリットを理解しながら、効果的な活用を考えたい。</li> </ul>

関係諸機関との連携強化によるキャリア教育の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員のキャリアパスポートの作成ができた。</li> <li>・生徒の実態に応じてどのように活用するかが今後の課題。</li> </ul>
特別支援教育の専門性の向上	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師研修、定期訪問での指導、助言が大変役に立った。</li> </ul>

ウ <つなぐ> 共生・共育の充実と地域や小中学校との連携づくり

取組目標	評価	成果と課題
小中学校（部）との情報共有・連携体制の構築	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校入学を視野に得た情報の取得に努めた。</li> <li>・進路相談実施後、速やかに情報収集し、必要に応じて関係機関とつなぐことを伝えてきた。</li> <li>・学校に伝えるべき情報はどんなものか具体的に伝える。小と中、中と高の伝達の体制、内容を整えていく必要がある。</li> </ul>
地域における特別支援学校のセンター的取組の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談件数が昨年度に比べ増えてきている。</li> <li>・体験入学やオープンスクールを活用し、担任にも特別支援学校の教育を知ってもらうようにしていくことも大切。</li> </ul>
学校再編を念頭に置き、併設校との「共生・共育」の取組の実現	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒も教員も交流を楽しみにしており参加することができた。</li> <li>・高校再編後は高校の生徒数は増加することがわかっている。どのような共生共育を行っていくか今から確認していく。</li> </ul>

エ <高める> 教職員が互いに支えあい高めあう、働きやすい環境づくり

取組目標	評価	成果と課題
働きがいのある学校にするための相互支援と業務改善の実現	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の様子は共有できたが課題を抱えている生徒への具体的対応についてもっと深めたかった。</li> <li>・さらにお互いが声をかけやすい雰囲気づくりを行いたい。</li> <li>・重要度をつけることで、業務の進め方の改善を図る。効率的にできる方法を考える。</li> </ul>
教職員が生徒と向き合う時間の確保	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移転業務を抱えながら、業務を効率的に行おうとする意識が感じられた。</li> <li>・一方で業務が偏ったり、集中したりする時期がまだあるので改善を図りたい。</li> </ul>
信頼される学校づくりのための意識向上	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全運転管理も始まり、より安全運転への意識が高まった。</li> <li>・ヒヤリハットを共有し、今後も不祥事ゼロを続けたい。</li> </ul>

(2) 令和5年度の取組目標・達成方法・成果目標

ア <守る> 心身の健やかな成長のための安全で安心な教育環境づくり

取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
安全・安心で健康に過ごすための知識・技能の獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初、後期初めに生徒理解、支援方法の職員研修の実施</li> <li>・重複障害生徒に対する対応方法のOJT研修の実施</li> </ul>	研修を生徒の指導、支援に役立てた

自己理解、自己調整力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ S C、関係機関との連携</li> <li>・ 生徒と教師の対話や定期的に自分を振り返る機会の設定</li> <li>・ より良い学校生活を送るための校則の作成</li> </ul>	<p>相談できる先生がいると答えた生徒80%以上</p> <p>生徒に適切な指導、支援のための校則が作成できた</p>
互いを認め合い人権を守る心の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道徳指導の充実</li> <li>・ 校内人権研修の実施（外部講師も含む）</li> </ul>	<p>生徒の人権を意識して指導、支援ができた</p> <p>友達と仲良く過ごせた生徒90%以上</p>
生徒の実態を考慮した防災体制、感染症対策の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作成した防災対策マニュアルについて併設校と協力体制の構築</li> <li>・ 外部講師による防災研修</li> <li>・ 想定される災害を考慮した防災訓練の実施</li> <li>・ 感染症対策について、定期的にマニュアルを見直し</li> </ul>	<p>新しいマニュアルで災害時自分の動きが把握できた</p> <p>災害時、どのように行動すればいいか理解できた生徒80%以上</p>

イ <育む> 確かな学力や豊かに生きる力を育む授業の充実

取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
生徒が主体的に学べる授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員相互での授業参観、研修、OJT</li> <li>・ 外部の助言者を活用した職員研修の実施</li> <li>・ ICTの効果的な活用方法を探る</li> </ul>	<p>外部講師による研修が役に立った</p> <p>ICTを活用した授業を行った</p>
自立と社会参加を目指した進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の希望、実態に即した実習先、進路先の選定</li> <li>・ キャリアパスポートの有効活用</li> </ul>	<p>家庭と協力しながら実習等の実施、進路決定に向けた連携ができた</p>
自分の目標に沿って専門性を向上する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 管理職との相談による目標の設定</li> <li>・ センター研修、eラーニングの活用</li> <li>・ 外部講師による研修</li> </ul>	<p>研修を教育活動に活かした</p>

ウ <つなぐ> 学びと生活を支えるための連携

取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
入学前、在学中、進路先との継続的支援体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ （入学前）入学を希望する生徒の支援内容の共有</li> <li>・ （在生徒）生徒の実態を的確に把握し、必要に応じたケース会議を実施</li> <li>・ （在生徒）必要に応じて外部機関を入れてのケース会議を実施</li> <li>・ （3年生）卒業後の生活を踏まえ必要に応じて事前に関係機関との相談</li> </ul>	<p>対応が難しい生徒について学部で共有できた</p> <p>ケース会議で生徒の課題に方向性が見えた</p>
情報共有と情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 要望に応じた対応</li> <li>・ 必要に応じ、関係機関を紹介</li> </ul>	<p>どのような支援を行っているか校内で発信</p>

新しい共生共育の土台作り	・これまでの実践を踏まえ、どのような共生共育ができるか具体的に探り、企画、実施	新しい共生共育について双方から提案がされた
--------------	---	-----------------------

エ <高める> わかりあい高めあう働きやすい環境づくり

取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
お互いを支え合う関係づくりと働きやすい職場環境の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職とともに業務の再整理</li> <li>・Google等を使ったアンケートの活用でまとめの負担を軽減</li> <li>・日常的なコミュニケーション</li> </ul>	<p>業務の整理ができた</p> <p>相談しやすい雰囲気がある職場である</p>
「チーム伊豆高原」による、全員参加の業務改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年始学年末事務処理の確実な確保</li> <li>・会議の効率的な進行</li> </ul>	19時退勤前年度比 2 割減 事務処理の時間が十分確保できた
不祥事根絶	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不祥事根絶に向けた定期的な研修</li> <li>・ヒヤリハットの共有</li> <li>・安全運転の徹底</li> <li>・適切な会計処理</li> </ul>	不祥事ゼロ

4 監査対象期間における特色ある取組

年度	取組概要	成果及び課題
令和 4	学習指導 ・個別最適な学び、協働的な学びを行う。	・各学年実態に合わせ2グループでの活動を行うことで個々に合わせた指導ができている。
	生活指導、安全指導 ・防災マニュアルの充実 ・教職員の安全教育研修の実施	・「子供を守る」という観点からの安全教育研修を外部講師に依頼、実施した。
	進路指導・キャリア教育 ・将来の社会自立や生活充実に向け、職業科を中心にキャリア教育の視点で指導体系を整備する。 ・キャリア教育の充実を図っていく。	・校内研修の窓口を「職業科」に設定し、外部講師の助言をもとに縦横のつながりを意識した指導内容の見直しを図っている。
	共生・共育 ・学校移転を念頭に共生・共育の充実 ・関係機関との連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期、高校移転先の高校の文化祭に参加。2学期の作業販売会に移転先の高校へ参加を依頼している。</li> <li>・家庭環境が不安定な生徒に対し、関係機関との強化を図っている。</li> </ul>
	業務改善 ・事務処理時間の確保 ・生徒と向き合う時間の確保	・月超過勤務時間40時間以上の教職員は1学期で延べ2人。年度当初の時間の使い方について改善方法を探っていきたい。



<p>令和 5</p>	<p>学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒のつぶやきを大切に授業の取組。</li> <li>・ICTを活用した学習の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中の生徒のつぶやきを授業の展開に活用し、生徒自身が考えたり、話し合ったりすることを意識する教員が増えてきた。</li> <li>・外部講師研修を含め、まずは触ってみることを意識を高めた。ICTをどのような場面で使うか、効果的な使い方は何かを先進的な学校の様子を聞きながら、本校としての使い方を今後探っていく。</li> </ul>
	<p>生活指導、安全指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒と一緒に学校の決まりの見直しを実施する。</li> <li>・新校舎移転に伴い、できたマニュアルを実際に訓練等で活用しながら見直しを図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期、生徒会の生徒を中心に、自販機の使い方について話し合いをし、時間帯、お金や帰るものの制限を決め、教師と話し合い、現在試行中である。</li> <li>・できた新しいマニュアルで地震の際の避難訓練を実施した。現在のマニュアルには中庭に一度避難した後、高校と一緒にグラウンドに避難することになっているが、本校には移動が難しい生徒、車いすの生徒がいるのでグラウンドへの移動が必要かどうか議論をしているところである。</li> <li>・今後、高校が避難所に指定された場合の本校の対応についても、高校と協力しながら対応について考える機会を今後持つことになっている。</li> </ul>
	<p>進路指導・キャリア教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアパスポートの効果的な活用の仕方を考える。</li> <li>・キャリアパスポートへ書き込む内容の見直しをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自身が卒業後お世話になる事業所等に対して必要な内容が網羅されているか、自分の言葉になっているかの見直しを図っているところである。</li> <li>・（業務改善も含め）個別の教育支援計画、個別の指導計画と内容が重なっているところはないか。本当に将来知ってほしい内容かどうかをこれまでの活用の仕方から見直す計画である。</li> </ul>
	<p>共生・共育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新校舎移転に伴い、新たな共生共育について探る。</li> <li>・これまでの良さを生かしながら、直接交流でなくてもできる交流の内容を探る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2、3年生は、高校側も交流を行いたい意思があり、計画中である。1年生については、どんな規模で、どんなことができるかを生徒自身が考える取り組みを始めている。</li> <li>・お互いの学校の特徴的な取り組みを知ることから始める。</li> <li>・高校側が、本校の作業製品に関心を持ち、校内への展示、製品開発などを今後計画している。</li> </ul>

	<p>業務改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・併設校との教育課程を考慮し、業務の整理、見直しを図る。</li> <li>・最終施錠19時以降日数が昨年度の20%減を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで積み上げてきた業務の整理を今年度の教育課程に合わせ見直しをし、次年度の行事、業務の見直しの参考にする。</li> <li>・移転業務が一段落した6月以降は、目標を達成できている。</li> </ul>
--	--	--

## 5 教職員について（伊豆高原分校）

### (1) 異動状況

(単位：人)

職名 区分	本務職員											臨時・会計年度任用職員						小計	計					
	教育職員						行政職員					教諭・任期付・臨時	臨時養護教諭・任期付	主事・臨時	非常勤講師	医療的ケア看護職員	非常勤嘱託員			非常勤労務職員				
	校長	副校長	教頭	教諭	再任用教諭	養護教諭	栄養教諭	事務長	主査	主任	主事										技能長	主任技能員		
転出				4										4									0	4
退職														0	1		1						2	2
昇任														0									0	0
転入				2							1			3									0	3
新任														0					1				1	1
差引増減	0	0	0	△ 2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	△ 1	△ 1	0	△ 1	0	1		0		△ 1	△ 2

### (2) 現員数（令和5年4月1日現在）

(単位：人)

職名 区分	本務職員											臨時・会計年度任用職員						小計	計					
	教育職員						行政職員					教諭・任期付・臨時	臨時養護教諭・任期付	主事・臨時	非常勤講師	医療的ケア看護職員	非常勤嘱託員			非常勤労務職員				
	校長	副校長	教頭	教諭	再任用教諭	養護教諭	栄養教諭	事務長	主査	主任	主事										技能長	主任技能員		
男			1	8						1				10	1								1	11
女				12										12	2	1			1			1	5	17
計	0	0	1	20	0	0	0	0	0	1	0	0	0	22	3	1			1		1	6	28	

### (3) 健康管理について

昨年度に続き、コロナ禍ではあったが、育児休業中の職員を除き、教職員全員が、養護教諭が特に指示を出さなくても生活習慣病健診・結核健診・人間ドック・脳ドック・指定年齢検診のいずれかを受診し、疾病の早期発見と健康保持に努めることができた。検査結果が出て、要精密になった職員全員も結果が分かった時点で、検査の計画を入れ受診できている。VDT検診、腰痛検診についても1次検診

(問診票記入) を該当者全員が受診している。

職員衛生委員会でも教職員の健康についての話題が出され、気になる教職員については、管理職、部主事、養護教諭が声をかけたり、相談にのったりなどの対応をしている。令和5年度は、長期（1か月以上）休んでいる教職員はいない。

#### (4) 教職員の研修について

##### ア 令和4年度

研修目標
生徒、保護者の将来像やニーズに基づいた活動をとおして、生徒が必然性を実感できる授業実践を積み上げる。
令和4年度の研修について
主体性を高める職業の授業 ～自ら考え判断し問題解決を図る人を育む授業づくり～
研修内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度末に作成した職業の年間指導計画を原案として、指導内容を書き加えたり修正したりすることで、年度末までに各学年の学習グループごとの令和4年度版年間指導計画を作成する。</li> <li>・授業カードやワークシートを確実に保存し、学習の積み上げを残すとともに、今後の指導の参考にする。</li> <li>・助言講師を招いた校内研修会（1学期・2学期）を設け、授業を見合い、事後研修にて授業づくりについて考える機会とする。</li> <li>・一人一授業研を行い、授業力向上を目指す。</li> </ul>
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に、生徒の主体性（生徒が考え、行動できる場面設定）が見られる授業が増えてきている。</li> <li>・これまでの職業の学習は、現場実習、集中作業に関する内容がほとんどであったが、指導計画の修正、学習内容の精選、これまでの学習成果の積み上げを残すことで、「働く力とは」「生活の質を上げるために」「卒業後の生活」を意識した指導ができるようになってきた。</li> <li>・教員の問いかけの方法、ICTの活用など、どのような仕掛けや考えを共有すれば生徒が自分で考え判断するのかを考えることができた。また授業をお互いに見合うことで他の先生たちがどのように生徒にアプローチしているのか勉強になった。</li> <li>・生徒の主体性を一番に置いた授業を考えることができた。教師の言葉かけの工夫やキーワードの繰り返しの発信、視覚支援を活用することで、生徒が自分の考えを発表する姿が増えたり、自分で視覚支援を使って授業に取り組んだりする姿が見られた。</li> <li>・外部講師による助言が自身の教育活動の見直しや気づいたことが多くあった。</li> <li>・授業で得られた成果を外部にも発信していきたい。</li> </ul>

##### イ 令和5年度

##### (ア) 校内研修

研修目標
これまでの教師主体の授業から、生徒が考え、生徒同士が協力し合って作業班運営ができる授業を実践することや、校内から校外へのつながり合いを目指した活動を通して、生徒の「主体的・対話的な姿」を引き出し、生徒のつぶやき、考えを大切にしたい授業づくりを行う。
令和5年度の研修について
主体的・対話的な生徒の姿を目指して ～ つながり合って学ぶ作業学習 ～

研修内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新校舎移転後、荷解きの時点から、自分たちが動きやすいような動線を考えた作業環境の整備を教師と相談しながら行う。</li> <li>・全職員が授業に関わり、授業づくりや年間指導計画などについて話し合う。</li> <li>・地域とつながる作業学習を意識して、多様な活動を生徒同士で考え、製品作りや販売会についても生徒が主体的に考えたり、行動したりする（この中には教師との相談も含む）授業づくりの実践を行う。</li> <li>・作業販売の機会（文化祭、校外での作業販売）に向けて、販売会での製品に対するアンケートの実施やお客様のニーズを知り製品開発について考える。また、身近な人や地域とどのようにつながるのか考え、地域とつながる作業学習の土台を作る。</li> <li>・各班で身につけたい力、そのための方法や内容について考え、各班の生徒の実態や育てたい力を把握し、有効な支援や手だてを考えながら、1年でどんな変化があったのか記録する。</li> <li>・定期的な作業部会の時間を設け、テーマに迫る指導の方針を確認し合う。</li> <li>・この研修をベースに併設校との共生共育にもつなげる（例：作業製品の開発、授業交流）</li> </ul>

## 6 防災対策について

### (1) 令和4年度

指導目標	
災害時や緊急時に迅速に対応でき、実効性のある体制の整備に努める。	
取組内容	成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校移転に伴い、マニュアルを作成し直すとともに、併設する高等学校とも内容について確認する。</li> <li>・防災備品の確認と備品の充実を図る。</li> <li>・不審者対応など、想定される災害、事故等についての研修を実践とともに行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校移転に関わる全ての学校の危機管理マニュアルを集め、新校舎移転後にどのような情報を網羅するか防災担当が確認し、項目を設定した。3月末には案が完成。4月以降見直しを図る。</li> <li>・移転を機会に、必要な防災用品があるか、どこに保管するか、出しやすいかの確認を行った。</li> <li>・外部講師（地域の防災担当）による、不審者対応について、実技を交えながら研修を行った。</li> </ul>
課題	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に、生徒が登校してからでないか見えてこない内容もあると思われるが、災害は待たないなので、新学期早急に内容について全教職員に説明や意見を求める。</li> <li>・ハザードマップの見直しを、近年の災害状況も考慮して周知する。</li> <li>・居住地域の防災状況（安全確認）の把握を生徒、保護者も一緒に改めて考える。</li> <li>・今後、併設校が避難所となった際に、特別支援学校としてできることを打ち合わせておく。</li> </ul>	

### (2) 令和5年度

指導目標
災害時や緊急時に迅速に対応でき、実効性のある体制の整備に努める。
取組内容

- 併設校と確認した新しいマニュアルについて、そのまま適用するのではなく、外部講師によるチェック、防災訓練等による見直しを随時行う。
- 防災食、防災用品の確認、すぐに使えるような保管の仕方について併設校と確認。
- ハザードマップの変更に伴う学校周辺の危険を生徒も含めてチェックする。
- 地域と一緒に、防災について考える機会を持つ。

## 7 学校開放について

学校開放は実施していない。

## 事務執行の根拠法令調

項 目	根拠法令
1 学校教育に関すること	教育基本法（第1条、第2条） 学校教育法（第1条、第2条、第3条、第72条、第73条、第74条、第76条、第77条、第81条、第82条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第5条） 学校給食法（第4条） 特別支援学校の幼稚部及び高等部における学校給食に関する法律（第3条） 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校高等部学習指導要領 静岡県立学校設置条例 静岡県立特別支援学校学則 静岡県就学指導委員会規則 いじめ防止対策推進法 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律
2 学校の管理・運営に関すること	医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律 学校教育法（第137条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条） 教育公務員特例法（第21条、第22条） 学校保健安全法（第15条、第27条） 学校図書館法（第3条、第4条） 特別支援学校への就学奨励に関する法律（第2条、第3条） 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行令 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行規則 特別支援教育就学奨励費負担金等及び要保護児童生徒援助費補助金交付要綱 要保護児童生徒援助費補助金及び特別支援教育就学奨励費補助金交付要綱 静岡県立学校管理規則 静岡県教育委員会処務規程 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 静岡県情報公開条例施行規則

## 学校施設の概要

### 1 面積及び所有区分

#### (1) 本校

(令和5年7月31日現在)

区分	面積㎡	所有内訳					摘要
		県有㎡	国有㎡	市町村有㎡	後援会有㎡	民有㎡	
学校敷地	17,864.42	17,864.42					
内訳	校舎敷地	14,974.42	14,974.42				
	運動場敷地	2,890.00	2,890.00				
校舎	建 5,988.72	建 5,988.72					
	延 8,425.07	延 8,425.07					
体育館	建 601.31	建 601.31					
	延 549.31	延 549.31					
その他建物	建 198.36	建 198.36					
	延 106.26	延 106.26					
職員住宅	4戸	4戸					

#### (2) 伊東分校

(令和5年7月31日現在)

区分	面積㎡	所有内訳					摘要
		県有㎡	国有㎡	市町村有㎡	後援会有㎡	民有㎡	
学校敷地							
内訳	校舎敷地						
	運動場敷地						
校舎	建 484.00			建 484.00			伊東市立西小学校校舎一部借受
	延 800.00			延 800.00			
体育館							
その他建物							

## (3) 伊豆高原分校

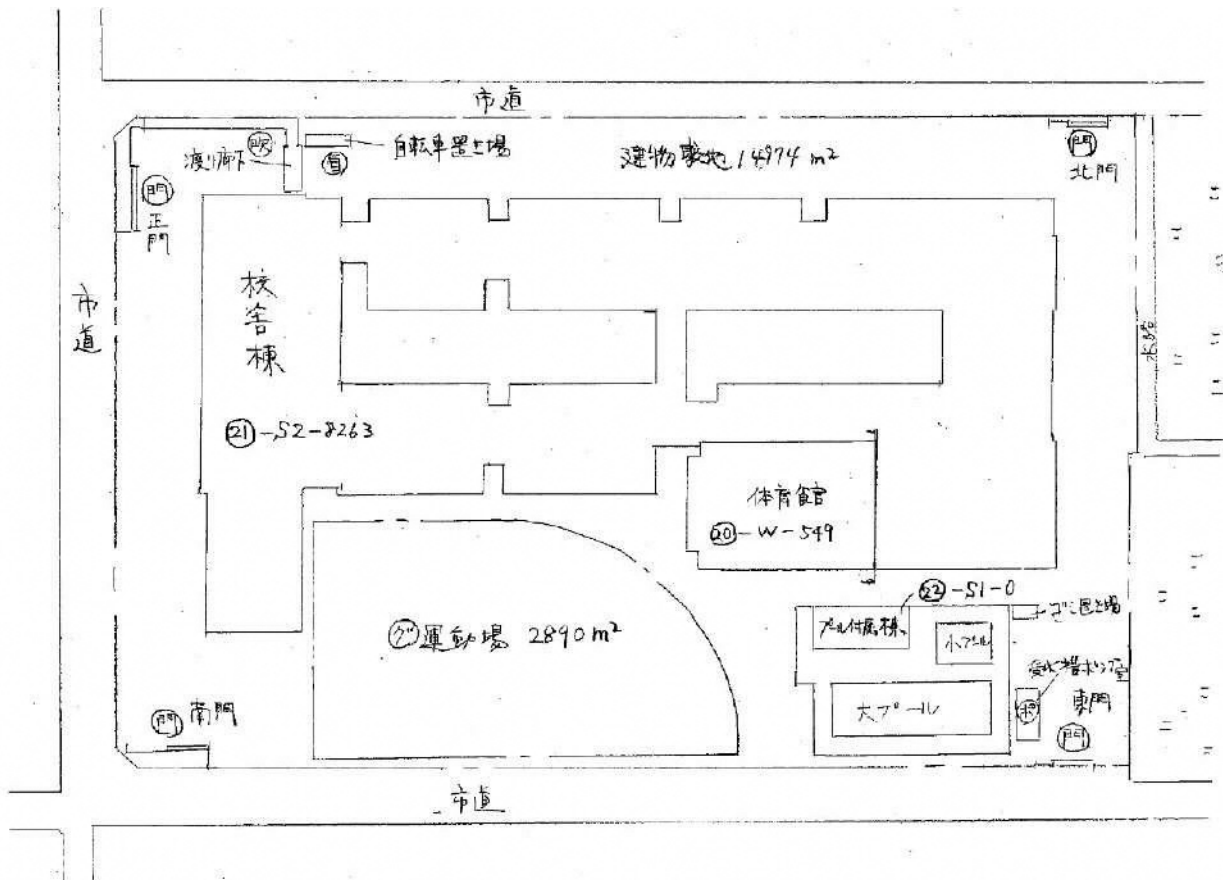
(令和5年7月31日現在)

区分	面積㎡	所有内訳					摘要
		県有㎡	国有㎡	市町村有㎡	後援会有㎡	民有㎡	
学校敷地							
内訳	校舎敷地						
	運動場敷地						
校舎	建 1,074.45	建 1,074.45					伊東伊東 高校校舎 一部借受
	延 1,074.45	延 1,074.45					
体育館	建 565.52	建 565.52					伊東伊東 高校体育 館一部借 受
	延 565.52	延 565.52					
その他建物							



2 配置・規模等

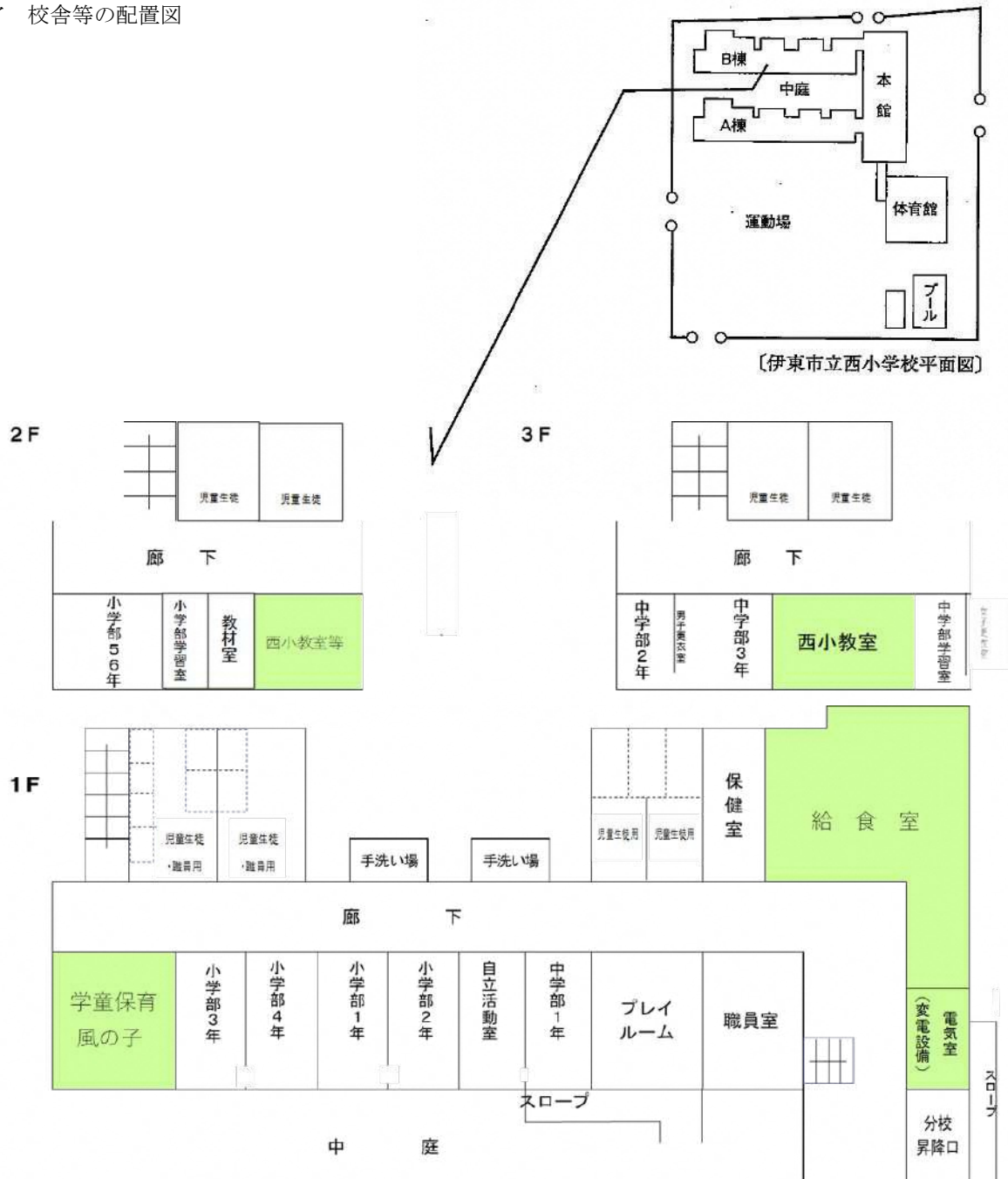
- (1) 本校 伊豆の国市寺家246番地1  
 ア 校舎等の配置図



イ 学校施設の規模等（法面・演習林等を除く）

区分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当校	17,864.42m <sup>2</sup>	8,425.07m <sup>2</sup>	2,890.00m <sup>2</sup>
県平均	18,814.78m <sup>2</sup>	6,914.52m <sup>2</sup>	5,244.39m <sup>2</sup>

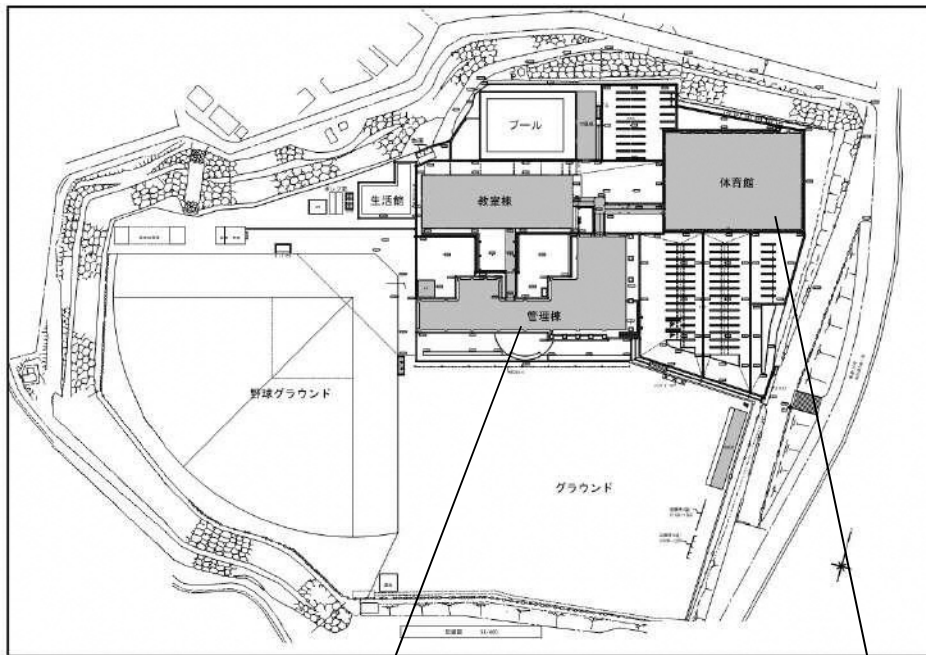
(2) 伊東分校 伊東市幸町1-5  
 ア 校舎等の配置図



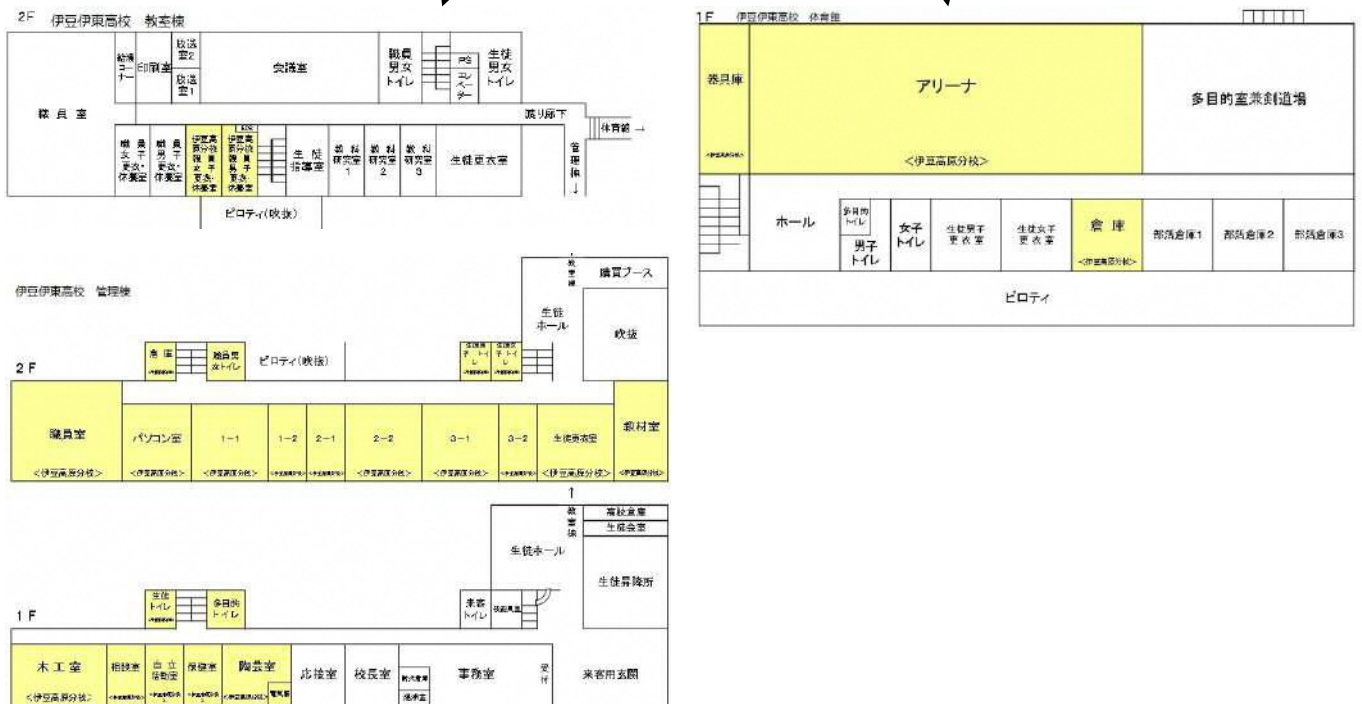
イ 学校施設の規模等（法面・演習林等を除く）

区分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当校	0㎡	800.00㎡	0㎡
県平均			

(3) 伊豆高原分校 伊東市吉田748-1  
 ア 校舎等の配置図



伊豆伊東高等学校  
 配置図



イ 学校施設の規模等（法面・演習林等を除く）

区分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当校	0m <sup>2</sup>	1,639.97m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>
県平均			

# 在籍生徒調

## 1 本 校

(令和5年7月31日現在)

学年	学部 区分	小学部			中学部			定員	高等部(普通科)			合 計		
		男子	女子	計	男子	女子	計		男子	女子	計	男子	女子	計
1年	入学者	3 ( )	1 ( )	4 ( )	2 ( )	4 ( 2 )	6 ( 2 )	24	8 ( 2 )	3 ( )	11 ( 2 )	13 ( 2 )	8 ( 2 )	21 ( 4 )
	増加	( )	( )	( )	( )	( )	( )		1 ( 1 )	( )	1 ( 1 )	1 ( 1 )	( )	1 ( 1 )
	減少	( )	( )	( )	( )	( )	( )		1 ( )	( )	1 ( )	1 ( )	( )	1 ( )
	現在	3 ( )	1 ( )	4 ( )	2 ( )	4 ( 2 )	6 ( 2 )		8 ( 3 )	3 ( )	11 ( 3 )	13 ( 3 )	8 ( 2 )	21 ( 5 )
2年	入学者	4 ( )	2 ( )	6 ( )	5 ( 1 )	2 ( )	7 ( 1 )	21	6 ( )	6 ( )	12 ( )	15 ( 1 )	10 ( )	25 ( 1 )
	増加	( )	( )	( )	( )	( )	( )		( )	( )	( )	( )	( )	( )
	減少	( )	( )	( )	( )	( )	( )		( )	( )	( )	( )	( )	( )
	2年時当初	4 ( )	2 ( )	6 ( )	5 ( 1 )	2 ( )	7 ( 1 )		6 ( )	6 ( )	12 ( )	15 ( 1 )	10 ( )	25 ( 1 )
	増加	( )	( )	( )	( )	( )	( )		( )	( )	( )	( )	( )	( )
	減少	( )	( )	( )	( )	( )	( )		( )	( )	( )	( )	( )	( )
現在	4 ( )	2 ( )	6 ( )	5 ( 1 )	2 ( )	7 ( 1 )		6 ( )	6 ( )	12 ( )	15 ( 1 )	10 ( )	25 ( 1 )	
3年	入学者	1 ( )	1 ( )	2 ( )	1 ( )	6 ( )	7 ( )	18	5 ( )	4 ( )	9 ( )	7 ( )	11 ( )	18 ( )
	増加	( )	( )	( )	1 ( )	( )	1 ( )		( )	( )	( )	1 ( )	( )	1 ( )
	減少	( )	( )	( )	1 ( )	1 ( )	2 ( )		( )	( )	( )	1 ( )	1 ( )	2 ( )
	2年時当初	1 ( )	1 ( )	2 ( )	1 ( )	5 ( )	6 ( )		5 ( )	4 ( )	9 ( )	7 ( )	10 ( )	17 ( )
	増加	( )	1 ( 1 )	1 ( 1 )	( )	2 ( )	2 ( )		( )	( )	( )	( )	3 ( 1 )	3 ( 1 )
	減少	( )	( )	( )	( )	1 ( )	1 ( )		( )	( )	( )	( )	1 ( )	1 ( )
	3年時当初	1 ( )	2 ( 1 )	3 ( 1 )	1 ( )	6 ( )	7 ( )		5 ( )	4 ( )	9 ( )	7 ( )	12 ( 1 )	19 ( 1 )
	増加	( )	( )	( )	( )	1 ( )	1 ( )		( )	( )	( )	( )	1 ( )	1 ( )
減少	( )	1 ( 1 )	1 ( 1 )	( )	( )	( )		( )	( )	( )	( )	1 ( 1 )	1 ( 1 )	
現在	1 ( )	1 ( )	2 ( )	1 ( )	7 ( )	8 ( )		5 ( )	4 ( )	9 ( )	7 ( )	12 ( )	19 ( )	
4年	入学者	5 ( )	3 ( )	8 ( )	( )	( )	( )		( )	( )	( )	5 ( )	3 ( )	8 ( )
	増加	( )	( )	( )	( )	( )	( )		( )	( )	( )	( )	( )	( )
	減少	( )	1 ( )	1 ( )	( )	( )	( )		( )	( )	( )	( )	1 ( )	1 ( )
	2年時当初	5 ( )	2 ( )	7 ( )	( )	( )	( )		( )	( )	( )	5 ( )	2 ( )	7 ( )
	増加	1 ( 1 )	( )	1 ( 1 )	( )	( )	( )		( )	( )	( )	1 ( 1 )	( )	1 ( 1 )
	減少	( )	( )	( )	( )	( )	( )		( )	( )	( )	( )	( )	( )
	3年時当初	6 ( 1 )	2 ( )	8 ( 1 )	( )	( )	( )		( )	( )	( )	6 ( 1 )	2 ( )	8 ( 1 )
	増加	( )	1 ( )	1 ( )	( )	( )	( )		( )	( )	( )	( )	1 ( )	1 ( )
	減少	1 ( 1 )	( )	1 ( 1 )	( )	( )	( )		( )	( )	( )	1 ( 1 )	( )	1 ( 1 )
	4年時当初	5 ( )	3 ( )	8 ( )								5 ( )	3 ( )	8 ( )
増加	( )	( )	( )								( )	( )	( )	
減少	( )	( )	( )								( )	( )	( )	
現在	5 ( )	3 ( )	8 ( )								5 ( )	3 ( )	8 ( )	

学年	学部 区分	小学部			中学部			高等普通部科				合計		
		男子	女子	計	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	男子	女子	計
5年	入学者	6 ( )	5 ( )	11 ( )								6 ( )	5 ( )	11 ( )
	増加	( )	( 1 )	( 1 )								( )	( 1 )	( 1 )
	減少	( )	( )	( )								( )	( )	( )
	2年時当初	6 ( )	5 ( 1 )	11 ( 1 )								6 ( )	5 ( 1 )	11 ( 1 )
	増加	( )	( )	( )								( )	( )	( )
	減少	1 ( )	( )	1 ( )								1 ( )	( )	1 ( )
	3年時当初	5 ( )	5 ( 1 )	10 ( 1 )								5 ( )	5 ( 1 )	10 ( 1 )
	増加	1 ( 1 )	( )	1 ( 1 )								1 ( 1 )	( )	1 ( 1 )
	減少	1 ( 1 )	1 ( )	2 ( 1 )								1 ( 1 )	1 ( )	2 ( 1 )
	4年時当初	5 ( )	4 ( 1 )	9 ( 1 )								5 ( )	4 ( 1 )	9 ( 1 )
	増加	( )	( )	( )								( )	( )	( )
	減少	( )	( )	( )								( )	( )	( )
	5年時当初	5 ( )	4 ( 1 )	9 ( 1 )								5 ( )	4 ( 1 )	9 ( 1 )
	増加	( )	( )	( )								( )	( )	( )
	減少	( )	( )	( )								( )	( )	( )
現在	5 ( )	4 ( 1 )	9 ( 1 )								5 ( )	4 ( 1 )	9 ( 1 )	
6年	入学者	7 ( )	5 ( )	12 ( )								7 ( )	5 ( )	12 ( )
	増加	( )	( )	( )							( )	( )	( )	
	減少	( )	1 ( )	1 ( )							( )	1 ( )	1 ( )	
	2年時当初	7 ( )	4 ( )	11 ( )								7 ( )	4 ( )	11 ( )
	増加	( )	( )	( )							( )	( )	( )	
	減少	( )	2 ( )	2 ( )							( )	2 ( )	2 ( )	
	3年時当初	7 ( )	2 ( )	9 ( )								7 ( )	2 ( )	9 ( )
	増加	( )	( )	( )							( )	( )	( )	
	減少	( )	( )	( )							( )	( )	( )	
	4年時当初	7 ( )	2 ( )	9 ( )								7 ( )	2 ( )	9 ( )
	増加	1 ( 1 )	( )	1 ( 1 )							1 ( 1 )	( )	1 ( 1 )	
	減少	1 ( 1 )	( )	1 ( 1 )							1 ( 1 )	( )	1 ( 1 )	
	5年時当初	7 ( )	2 ( )	9 ( )								7 ( )	2 ( )	9 ( )
	増加	3 ( 2 )	( )	3 ( 2 )							3 ( 2 )	( )	3 ( 2 )	
	減少	4 ( 2 )	( )	4 ( 2 )							4 ( 2 )	( )	4 ( 2 )	
6年時当初	6 ( )	2 ( )	8 ( )								6 ( )	2 ( )	8 ( )	
増加	1 ( )	( )	1 ( )							1 ( )	( )	1 ( )		
減少	1 ( )	( )	1 ( )							1 ( )	( )	1 ( )		
現在	6 ( )	2 ( )	8 ( )								6 ( )	2 ( )	8 ( )	
合計	24 ( )	13 ( 1 )	37 ( 1 )	8 ( 1 )	13 ( 2 )	21 ( 3 )	63	19 ( 3 )	13 ( )	32 ( 3 )	51 ( 4 )	39 ( 3 )	90 ( 7 )	

( ) は内数で訪問教育該当者

2 伊東分校

(令和5年7月31日現在)

学年	学部 区分	小学部			中学部			高等部(普通科)				合計		
		男子	女子	計	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	男子	女子	計
1年	入学者	2	1	3	4	1	5					6	2	8
	増加													
	減少													
	現在	2	1	3	4	1	5					6	2	8
2年	入学者	5	1	6	3	3	6					8	4	12
	増加													
	減少													
	2年時当初	5	1	6	3	3	6					8	4	12
	増加													
	減少													
現在	5	1	6	3	3	6					8	4	12	
3年	入学者	3	1	4	4	1	5					7	2	9
	増加													
	減少													
	2年時当初	3	1	4	4	1	5					7	2	9
	増加													
	減少													
	3年時当初	3	1	4	4	1	5					7	2	9
	増加													
減少														
現在	3	1	4	4	1	5					7	2	9	
4年	入学者	3	5	5								3	5	5
	増加													
	減少													
	2年時当初	3	5	8								3	5	8
	増加													
	減少	1		1								1		1
	3年時当初	2	5	7								2	5	7
	増加													
	減少													
	4年時当初	2	5	7								2	5	7
増加														
減少														
現在	2	5	7								2	5	7	

学年	学部 区分	小学部			中学部			高等部(普通科)				合計		
		男子	女子	計	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	男子	女子	計
5年	入学者	2	3	5								2	1	5
	増加													
	減少		1	1									1	1
	2年時当初	2	2	4								2	2	4
	増加													
	減少													
	3年時当初	2	2	4								2	1	4
	増加													
	減少													
	4年時当初	2	2	4								2	2	4
	増加													
	減少													
	5年時当初	2	2	4								2	1	4
	増加													
減少														
現在	2	2	4								2	2	4	
6年	入学者	3	1	4								3	1	4
	増加													
	減少													
	2年時当初	3	1	4								3	1	4
	増加													
	減少													
	3年時当初	3	1	4								3	1	4
	増加													
	減少													
	4年時当初	3	1	4								3	1	4
	増加													
	減少													
	5年時当初	3	1	4								3	1	4
	増加													
減少														
6年時当初	3	1	4								3	1	4	
増加														
減少														
現在	3	1	4								3	1	4	
合計		17	11	28	11	5	16					28	16	44

3 伊豆高原分校

(令和5年7月31日現在)

学年	学部 区分	小学部			中学部			高等部(普通科)				合計		
		男子	女子	計	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	男子	女子	計
1年	入学者							24	10	5	15	10	5	15
	増加													
	減少													
	現在								10	5	15	10	5	15
2年	入学者							21	11	3	14	11	3	14
	増加													
	減少													
	2年時当初								11	3	14	11	3	14
	増加													
	減少													
	現在								11	3	14	11	3	14
3年	入学者							15	6	4	10	6	4	10
	増加													
	減少													
	2年時当初								6	4	10	6	4	10
	増加													
	減少													
	3年時当初								6	4	10	6	4	10
	増加													
	減少													
現在								6	4	10	6	4	10	
合計								60	27	12	39	27	12	39



## 入学志願者及び入学者数調

### 1 本 校

区 分		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
学 科 別		高 等 部 普 通 科	高 等 部 普 通 科	高 等 部 普 通 科	高 等 部 普 通 科	高 等 部 普 通 科
生徒定員 (A)		15	15	18	21	24
募集者数 (B)		15	15	18	21	24
志願者数	男	2 (0)	4 (0)	5 (0)	6 (0)	8 (3)
	女	2 (0)	2 (0)	4 (0)	6 (0)	3 (0)
	計 (C)	4 (0)	6 (0)	9 (0)	12 (0)	11 (3)
受検者数	男	2 (0)	4 (0)	5 (0)	6 (0)	8 (3)
	女	2 (0)	2 (0)	4 (0)	6 (0)	3 (0)
	計 (D)	4 (0)	6 (0)	9 (0)	12 (0)	11 (3)
合格者数	男	2 (0)	4 (0)	5 (0)	6 (0)	8 (3)
	女	2 (0)	2 (0)	4 (0)	6 (0)	3 (0)
	計 (E)	4 (0)	6 (0)	9 (0)	12 (0)	11 (3)
志願倍率(C)/(B)		0.27	0.4	0.5	0.57	0.46
受検倍率(D)/(B)		0.27	0.4	0.5	0.57	0.46
入学者数	男	2	4	5	6	8
	女	2	2	4	6	3
	計 (F)	4	6	9	12	11
充足率(F)/(A)		0.27	0.4	0.5	0.57	0.46

2 伊豆高原分校

区 分		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
学 科 別		高等部 普通科	高等部 普通科	高等部 普通科	高等部 普通科	高等部 普通科
生徒定員 (A)		21	24	15	21	24
募集者数 (B)		21	24	15	21	24
志願者数	男	12 (0)	9 (0)	6 (0)	11 (0)	10 (0)
	女	6 (0)	6 (0)	4 (0)	3 (0)	5 (0)
	計 (C)	18 (0)	15 (0)	10 (0)	14 (0)	15 (0)
受検者数	男	12 (0)	9 (0)	6 (0)	11 (0)	10 (0)
	女	6 (0)	6 (0)	4 (0)	3 (0)	5 (0)
	計 (D)	18 (0)	15 (0)	10 (0)	14 (0)	15 (0)
合格者数	男	12 (0)	9 (0)	6 (0)	11 (0)	10 (0)
	女	6 (0)	6 (0)	4 (0)	3 (0)	5 (0)
	計 (E)	18 (0)	15 (0)	10 (0)	14 (0)	15 (0)
志願倍率(C)/(B)		0.86	0.63	0.67	0.67	0.63
受検倍率(D)/(B)		0.86	0.63	0.67	0.67	0.63
入学者数	男	12	9	6	11	10
	女	6	6	4	3	5
	計 (F)	18	15	10	14	15
充足率(F)/(A)		0.86	0.63	0.67	0.67	0.63

## 卒業生の動向調

### 1 本校

区 分		中 学 部	高 等 部		合 計
			高 本 科	専 攻 科	
高 等 学 校 ( 本 科 )	全 日 制				
	定 時 制				
	通 信 制				
特別支援学校高等部		11			11
その他高等学校等					
大 学 等	大 学 ( 学 部 )				
	短 期 大 学 ( 本 科 )				
	大 学 ・ 短 大 の 通 信 教 育 学 部 等				
	そ の 他 大 学 等				
特別支援学校高等部専攻科					
専修学校（専門課程）					
専修学校（一般課程）・各種学校					
公共職業能力開発施設等					
就職					
上記以外※			6		6
不詳・死亡					
計（卒業生総数）		11	6		17

（再掲）「上記以外※」のうち、福祉施設等入所、通所者

区 分		中 学 部	高 等 部		合 計
			高 本 科	専 攻 科	
児童福祉施設					
障害者支援施設			6		6
（うち就労系支援事業利用者）			1		1
医療機関					
計			6		6

2 伊東分校

区 分		中学部	高等部		合 計
			本 科	専攻科	
高等学校 (本科)	全日制				
	定時制				
	通信制				
特別支援学校高等部		4			4
その他高等学校等					
大学等	大学 (学部)				
	短期大学 (本科)				
	大学・短大の通信教育学部等				
	その他の大学等				
特別支援学校高等部専攻科					
専修学校 (専門課程)					
専修学校 (一般課程) ・各種学校					
公共職業能力開発施設等					
就職					
上記以外※					
不詳・死亡					
計 (卒業者総数)		4			4

(再掲) 「上記以外※」のうち、社会福祉施設等入所、通所者

区 分		中学部	高等部		合 計
			本 科	専攻科	
児童福祉施設					
障害者支援施設 (うち就労系支援事業所利用者)					
医療機関					
計					

3 伊豆高原分校

区 分		中学部	高等部		合 計
			本 科	専攻科	
高等学校 (本科)	全日制				
	定時制				
	通信制				
特別支援学校高等部					
その他高等学校等					
大学等	大学（学部）				
	短期大学（本科）				
	大学・短大の通信教育学部等				
	その他の大学等				
特別支援学校高等部専攻科					
専修学校（専門課程）					
専修学校（一般課程）・各種学校					
公共職業能力開発施設等			1		1
就職			3		3
上記以外※			10		10
不詳・死亡					
計（卒業者総数）			14		14

（再掲）「上記以外※」のうち、社会福祉施設等入所、通所者

区 分		中学部	高等部		合 計
			本 科	専攻科	
児童福祉施設					
障害者支援施設			10		10
（うち就労系支援事業所利用者）			4		4
医療機関					
計			10		10

## 生徒の状況

### 1 本校

#### (1) 生徒の出身地域及び通学方法

##### ア 出身地

(令和5年7月31日現在)(単位:人)

市町名	沼津市	伊豆の国市	三島市	函南町	清水町	熱海市	富士市	御殿場市
児童・生徒数	30	18	18	4	3	1	1	1
構成比%	33.5	20.0	20.0	4.4	3.3	1.1	1.1	1.1

市町名	伊豆市	伊東市	長泉町	東伊豆町	静岡市	裾野市	計
児童・生徒数	3	3	5	1	2	/	90
構成比%	3.3	3.3	5.6	1.1	2.2	/	100.0

##### イ 通学方法

(令和5年7月31日現在)(単位:人)

区分	伊豆医療	訪問	スクールバス	電車	自家用車	徒歩	計
児童・生徒数	11	7	16	1	55	0	90
構成比%	12.2	7.8	17.8	1.1	61.1	0	100

※伊豆医療…伊豆医療福祉センター

##### ウ 訪問教育の状況

(令和5年7月31日現在)(単位:人)

訪問教員等		
小・中学部	教諭	1
	教諭(任・臨)	2
高等部	教諭	1
	教諭(任・臨)	0
計		4

(市町別在籍児童生徒数)

市町	沼津市	熱海市	伊豆の国市	伊豆市	富士市	長泉町	計
小学部				1			1
中学部	1	1	1				3
高等部			1		1	1	3
計	1	1	2	1	1	1	7

#### (2) 部(クラブ)の加入状況 (令和5年7月31日現在)(単位:人)

区分	運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数			/	
男子	1年			
	2年			
	3年			
	計			
	構成比%			
女子	1年			
	2年			
	3年			
	計			
	構成比%			
合計	(A+B)			
	構成比%			

該当なし

## (3) 障害別児童生徒数

区 分		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	学級数
小学部	単一障害				2			2	1
	重複障害								
	肢体重複	4	6	2	6	8	8	34	13
	合 計	4	6	2	8	8	8	36	14
中学部	単一障害	1		2				3	2
	重複障害								
	肢体重複	3	6	6				15	5
	合 計	4	6	8				18	7
高等部	単一障害			1				1	1
	重複障害								
	肢体重複	8	12	8				28	10
	合 計	8	12	9				29	11
訪問小学部	単一障害								
	重複障害								
	肢体重複					1		1	1
	合 計					1		1	1
訪問中学部	単一障害								
	重複障害								
	肢体重複	2	1					3	1
	合 計	2	1					3	1
訪問高等部	単一障害								
	重複障害								
	肢体重複	3						3	1
	合 計	3						3	1

## (4) 起因疾患別児童生徒数

区 分	脳性麻痺	脳外傷・後遺	水痘症	その他の疾患	二分脊椎	その他の脊椎疾患	筋ジストロフィー	その他の疾患	骨系統疾患
小学部	4	3	3	9	1	2	1		2
中学部	8		3	5					
高等部	5	5	2	11				1	
訪問	2			3					
計	19	8	8	28	1	2	1	1	2

区 分	代謝系疾患	心疾患	その他	計
小学部		2	9	36
中学部			2	18
高等部		1	4	29
訪問			2	7
計		3	17	90

2 伊東分校

(1) 生徒の出身地域及び通学方法

ア 出身地 (令和5年7月31日現在)(単位:人)

市町名	伊東市	熱海市	東伊豆町	計
児童・生徒数	32	12		44
構成比%	72.7	27.3		100.0

イ 通学方法 (令和5年7月31日現在)(単位:人)

区分	スクールバス	バス	自家用車	徒歩	計
児童・生徒数	23	1	18	2	44
構成比%	52.3	2.2	40.9	4.6	100

ウ 訪問教育の状況 (令和5年7月31日現在)(単位:人)

訪問教員等		市町	
小・中学部	教諭	小学部	該当なし
	教諭(任・臨)	中学部	
計		計	

(2) 部(クラブ)の加入状況 (令和5年7月31日現在)(単位:人)

区分	運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数				該当なし
男子	1年			
	2年			
	3年			
	計			
	構成比%			
女子	1年			
	2年			
	3年			
	計			
	構成比%			
合計	(A+B)			
	構成比%			

(3) 障害別児童生徒数 (令和5年7月31日現在)(単位:人)

区分	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	学級数
小学部	単一障害	2	1	3		3	9	3
	重複障害	3	4	3	3	4	18	8
	肢体重複				1		1	1
	合計	3	6	4	7	4	4	28
中学部	単一障害	5	4	1			10	2
	重複障害			4			4	2
	肢体重複		2				2	1
	合計	5	6	5				16

(4) 起因疾患別児童生徒数 (令和5年7月31日現在)(単位:人)

区分	染色体異常	自閉症(スペクトラム)	広汎性発達障害	小頭症	脳原性運動機能障害	その他	計
小学部	6	16	1		1	4	28
中学部	3	5	2		2	4	16
計	9	21	3		3	8	44



3 伊豆高原分校

(1) 生徒の出身地域及び通学方法

ア 出身地 (令和5年7月31日現在) (単位:人)

市 町 名	伊東市	熱海市	東伊豆町	河津町	計
生 徒 数	29	7	3		39
構 成 比 %	74.4	17.9	7.7		100.0

イ 通学方法 (令和5年7月31日現在) (単位:人)

区 分	電車	バス	自家用車	徒歩	計
生 徒 数	18	7	10	4	39
構 成 比 %	46.2	17.9	25.6	10.3	100.0

ウ 訪問教育の状況 (令和5年7月31日現在) (単位:人)

訪問 教員 等		市 町	
高 等 部	教諭	高等部	該 当 な し
	教諭(任・臨)		
計		計	

(2) 部(クラブ)の加入状況 (令和5年8月31日現在) (単位:人)

区 分	運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数			/	
男子	1年			
	2年			
	3年			
	計(A)			
	構成比%			
女子	1年			
	2年			
	3年			
	計(B)			
	構成比%			
合計	(A+B)			
	構成比%			

該当なし

(3) 障害別児童生徒数 (令和5年8月31日現在) (単位:人)

区 分	1年	2年	3年	計	学級数	
高 等 部	単一障害	12	13	8	33	5
	重複障害	2	1	1	4	3
	肢体重複	1		1	2	2
合 計	15	14	10	39	10	

(4) 起因疾患別児童生徒数 (令和5年8月31日現在) (単位:人)

区 分	知的障害	ダウン症	自閉症 スペクトラム	広汎性発 達障害	脳性まひ	その他の 疾患	計
高 等 部	11	6	12	3	1	6	39

特別支援学校における生産物売払調

令和5年度

(令和5年7月31日現在)

主な生産品目			
5 年 度	<p>本校 ＜手芸品・工作物＞メモ帳、ブローチ、</p> <p>伊豆高原分校 ＜手芸品・工作物＞コースター、袋、クッション、革しおり、ビーズスト ラップ、皿、鉢、箸置き、ペン立て、ベンチ、ハンディモップ、アクリル たわし(2個セット)、 ＜農作物＞じゃがいも</p>	① 売払金額	73,300 円
		② 前年度との差額	△167,450 円
4 年 度	<p>本校 ＜手芸品・工作物＞スケジュール帳、メモ帳、ブローチ、</p> <p>伊豆高原分校 ＜手芸品・工作物＞コースター(布)、ケース、袋、クッション、マスクコ ード、皮しおり、ぼち袋、小物入れ、バック、ビーズ、メモ帳、一筆箋、 ペン立て、ベンチ、鉢、皿、箸置、ハンディモップ ＜農作物＞じゃがいも、里芋</p>	① 売払金額	240,750 円
		② 前年度との差額	26,550 円
3 年 度	<p>本校 ＜手芸品・工作物＞スケジュール帳、メモ帳、ブローチ、</p> <p>伊豆高原分校 ＜手芸品・工作物＞コースター(布)、ランチョンマット、袋、ぼち袋(紙 製)、バック、小物入れ、メモ帳、一筆箋、メモ帳スタンド、ペン立て、ベ ンチ、鉢、皿、ハンディモップ、クッション、ビーズ、鍋敷き ＜農作物＞じゃがいも、里芋</p>	① 売払金額	214,200 円
		② 前年度との差額	△123,400 円

## 保管現金有高調

(令和5年度)  
(令和5年7月31日現在)

現金保管者	区 分	金額(円)
東部特別支援学校 事務長	駐車場料金等継続的資金前渡	5,400

## 預 金 調

(令和5年7月31日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高(円)	摘 要
スルガ銀行 伊豆長岡支店	無利息型 普通預金	2874897	東部特別支援学校 資金前渡者 長崎 良夫	0	給与、資金前渡 継続的資金前渡
スルガ銀行 伊豆長岡支店	無利息型 普通預金	2874898	(自振口)東部特別支援学校 資金前渡者 校長 長崎 良夫	0	保険料、光熱水費 電話料、後納郵便料
静岡銀行 韮山支店	無利息型 普通預金	158108	静岡県立東部特別支援学校 奨励費代理受領者 長崎 良夫	0	就学奨励費
残高合計				0	

郵 券 等 受 払 調

(令和5年7月31日現在)

(単位:枚、円)

区分	種類	令和4年度						令和5年度						摘要		
		繰越		受入		払出		繰越		受入		払出			差引現在高	
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額		枚数	金額
郵券	1円券	95	95	30	30	52	52	73	73			9	9	64	64	連絡用
	5円券	4	20			1	5	3	15			3	15			
	10円券	119	1,190			48	480	71	710			9	90	62	620	
	84円券	267	22,428			77	6,468	190	15,960			37	3,108	153	12,852	
	120円券	13	1,560			13	1,560									
	レターパック(370円)	4	1,480			2	740	2	740					2	740	
計			26,773		30		9,305		17,498				3,222		14,276	

(払出内訳)

区分	種類	令和4年度					
		本 校		伊東分校		伊豆高原分校	
		払出		払出		払出	
枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額		
郵券	1円券			52	52		
	5円券					1	5
	10円券			44	440	4	40
	84円券			48	4,032	29	2,436
	120円券			13	1,560		
	レターパック(370円)			2	740		
計				6,824		2,481	

区分	種類	令和5年度					
		本 校		伊東分校		伊豆高原分校	
		払出		払出		払出	
枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額		
郵券	1円券			6	6	3	3
	5円券					3	15
	10円券			4	40	5	50
	84円券			6	504	31	2,604
	120円券						
	レターパック(370円)						
計				550		2,672	

材 料 品 受 払 調

(令和5年7月31日現在)

(本校)

区分 品名	令和4年度						令和5年度						差引現在高	摘要	
	繰越		受入		払出		繰越		受入		払出				
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額			
精米	(袋) 0	(円) 0	(袋) 33	(円) 111,000	(袋) 33	(円) 111,000	(袋) 0	(円) 0	(袋) 0	(円) 0	(袋) 0	(円) 0	(袋) 0	(円) 0	10kg
計		0		111,000		111,000		0		0		0		0	

(伊豆高原分校)

区分 品名	令和4年度						令和5年度						差引現在高	摘要	
	繰越		受入		払出		繰越		受入		払出				
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額			
ホワイトウッド	(本) 0	(円) 0	(本) 58	(円) 35,984	(本) 58	(円) 35,984	(本) 0	(円) 0	(本) 40	(円) 25,920	(本) 40	(円) 25,920	(本) 0	(円) 0	2×4
鑄込泥	(本) 0	(円) 0	(本) 1	(円) 15,598	(本) 1	(円) 15,598	(本) 0	(円) 0	(本) 1	(円) 29,001	(本) 1	(円) 29,001	(本) 0	(円) 0	18L
計		0		51,582		51,582		0		54,921		54,921		0	

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和4年度)

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)		
					令和3年度	令和4年度	左のうち、 令和3年度から の繰越額分
(12)委託料	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費		2,013,550	
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		20,848,850	
	一般会計	教育費	学校教育費	健康体育費		20,574,028	
計					41,381,265	43,436,428	0
(14)工事請負費						0	
計					0	0	0
(16)公有財産購入費						0	
計					0	0	0
(17)備品購入費	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費		5,360,500	
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		6,547,000	
計					4,508,520	11,907,500	0
(18)負担金、補助及び交付金	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		793,591	
計					782,119	793,591	0
(21)補償、補填及び賠償金						0	
計					0	0	0

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和5年度)

(令和5年7月31日現在)

節名	会計	款	項	目	執行済額	(円)
						うち、令和4年度からの繰越額分
(12)委託料	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	0	0
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	6,356,704	0
	一般会計	教育費	学校教育費	健康体育費	8,697,354	0
計					15,054,058	0
(14)工事請負費					0	0
計					0	0
(16)公有財産購入費					0	0
計					0	0
(17)備品購入費	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	0	0
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	230,600	
計					230,600	0
(18)負担金、補助及び交付金	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	64,400	0
計					64,400	0
(21)補償、補填及び賠償金					0	0
計					0	0

委託料に関する調

(令和4年度)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
1	(事務関係) 車両運行管理業務	㈱KSドライバーサポート	円 31,236,000	円 23,364,000	円 0	円 23,364,000	一般	3.4.1 ～ 6.3.31	4.5.31 4.6.30 4.7.29 4.8.31 4.9.30 4.10.31 4.11.30 4.12.26 5.1.31 5.2.28 5.3.31 5.4.28 小計	円 (7,788,000) 649,000 649,000 649,000 649,000 649,000 649,000 649,000 649,000 649,000 649,000 649,000 649,000 649,000 649,000 649,000 649,000 7,788,000	本校通学送迎スクールバス2台運行管理	3長期
2	通学バス輸送業務	㈱東海バス伊東営業所	51,204,120	28,551,600	-20,304	28,531,296	一般	3.4.1 ～ 6.3.31	4.5.31 4.6.30 4.7.29 4.8.30 4.9.30 4.10.31 4.11.30 4.12.27 5.1.31 5.2.28 5.3.31 5.4.28 小計	(9,517,200) 793,100 793,100 793,100 793,100 793,100 793,100 793,100 793,100 793,100 793,100 793,100 793,100 9,517,200	伊東分校通学送迎バス1台運行	3長期
3	エレベーター保守点検業務	三菱電機ビルソリューションズ(株)横浜支社西湘支店	844,800	739,200	0	739,200	随契	4.4.1 ～ 5.3.31	4.5.31 4.6.30 4.7.29 4.8.31 4.9.30 4.10.31 4.11.30 4.12.26 5.1.31 5.2.28 5.3.31 5.4.28 小計	61,600 61,600 61,600 61,600 61,600 61,600 61,600 61,600 61,600 61,600 61,600 61,600 739,200	本校エレベーター保守点検	随契1号(少額)
4	建築物環境衛生管理業務	東海ビル保善㈱	2,730,860	2,456,850	0	2,456,850	一般	4.4.1 ～ 5.3.31	4.7.29 4.10.31 5.1.31 5.4.28 小計	175,450 1,485,825 274,450 521,125 2,456,850	本校校舎建築物環境衛生管理	一般
5	給食調理業務	㈱マルヨ	61,325,322	61,270,000	0	61,270,000	不随	2.8.1 ～ 5.7.31	4.5.31 4.6.30 4.7.29 4.8.31 4.9.30 4.10.31 4.11.30 4.12.26 5.1.31 5.2.28 5.3.31 5.4.28 小計	(20,423,328) 1,701,944 1,701,944 1,701,944 1,701,944 1,701,944 1,701,944 1,701,944 1,701,944 1,701,944 1,701,944 1,701,944 1,701,944 20,423,328	本校給食調理、配膳、片付け	2長期

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
6	産廃収集運搬・グリストラップ清掃業務	伊豆総業(株)	85,800	85,800	0	85,800	随契	4.7.20 ～ 4.9.30	4.9.22	85,800	本校産業廃棄物収集運搬及びグリストラップ配管清掃	随契1号(少額)
7	グリストラップ産業廃棄物処分	クリーンサービス(株)	5,500	5,500	0	5,500	随契	4.7.20 ～ 4.9.30	4.9.22	5,500	本校産業廃棄物処分	随契1号(少額)
8	産廃収集運搬・処分業務	(株)東部処理	74,800	74,800	0	74,800	随契	4.7.26 ～ 4.12.28	5.1.24	74,800	本校産業廃棄物収集運搬及び処分	随契1号(少額)
9	産廃収集運搬・処分業務	(株)フジタ	99,000	99,000	0	99,000	随契	4.12.13 ～ 5.2.24	5.3.8	99,000	伊豆高原分校産業廃棄物収集運搬及び処分	随契1号(少額)
10	陶芸窯移設業務	グランホープ(株)	181,500	181,500	0	181,500	随契	5.3.15 ～ 5.3.31	5.4.21	181,500	伊豆高原分校陶芸窯移設	随契1号(少額)
11	産廃収集運搬・処分業務	(株)東部処理	74,800	74,800	0	74,800	随契	5.2.1 ～ 5.3.31	5.4.19	74,800	本校産業廃棄物収集運搬及び処分	随契1号(少額)
12	産廃収集運搬・処分業務	(株)フジタ	99,000	99,000	0	99,000	随契	5.2.9 ～ 5.3.31	5.4.12	99,000	伊豆高原分校産業廃棄物収集運搬及び処分	随契1号(少額)
13	グリストラップ産廃収集運搬業務	伊豆総業(株)	53,900	53,900	0	53,900	随契	5.2.10 ～ 5.3.31	5.3.24	53,900	本校グリストラップ産業廃棄物収集運搬	随契1号(少額)
14	グリストラップ産廃処分	クリーンサービス(株)	5,500	5,500	0	5,500	随契	5.2.10 ～ 5.3.31	5.3.24	5,500	本校グリストラップ産業廃棄物処分	随契1号(少額)
15	物品移動業務	日本通運(株)静岡支店	990,000	974,050	0	974,050	随契	5.3.13 ～ 5.3.31	5.4.28	974,050	伊豆高原分校物品移動	随契1号(少額)
	事務関係計	15件	149,010,902	118,035,500	-20,304	118,015,196				42,578,428	0	
	(工事関係)		円	円	円	円				円		
1	教職員住宅敷地測量業務	鈴木設計(株)	990,000	979,000	-121,000	858,000	随契	4.8.31 ～ 5.3.29	5.4.28	858,000	教職員住宅敷地測量業務	随契1号(少額)
	工事関係計	1件	990,000	979,000	-121,000	858,000				858,000		
	合計	16件	150,000,902	119,014,500	-141,304	118,873,196				43,436,428		



整理 番号	委 託 業務名	受託者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法	契約期間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の内容	摘 要
				当初額	変 更 増減額	計						
参 考 1	消防設備 等保守点 検業務	伊豆防災 機器(株)	円	円	円	円	/	4.4.1 ～ 5.3.31	/	円	三島田方地 区10校の消 防用設備等 の機能維持	三島北高 等学校
参 考 2	警備業務	セコム(株)	/	14,256,000	1,108,800	15,364,800	/	1.10.1 ～ 6.9.30	/	/	三島田方地 区10校の機 械警備	三島北高 等学校
参 考 3	警備業務	東海綜合警 備保障(株)	/	4,148,760	-404,380	3,744,380	/	1.10.1 ～ 6.9.30	/	/	伊東熱海地 区6校の機 械警備	(分校)伊 東高等学 校
参 考 4	自家用電 気工作物 保安業務	(株)静岡ケイ テクノ	/	1,240,800	0	1,240,800	/	4.4.1 ～ 5.3.31	/	/	三島田方 地区4校の 自家用電気 工作物保安 管理	葦山高等 学校
参 考 5	可燃物収 集運搬業 務	(株)マエダ美 化	/	517,000	0	517,000	/	4.4.5 ～ 5.3.31	/	/	三島田方 地区4校の 可燃物収集 運搬業務	葦山高等 学校
参 考 6	プール浄 化装置保 守点検業 務	東伸興産(株)	/	194,700	0	194,700	/	4.4.20 ～ 4.9.30	/	/	三島田方 地区8校の プール浄化 装置保守	伊豆総合 高等学校
参 考 7	定期点検 業務	(有)コーセイ 産業	/	1,080,640	0	1,080,640	/	4.7.11 ～ 4.10.31	/	/	三島田方地 区県立学校 の建築基準 法第12条定 期点検	伊豆中央 高等学校
参 考 8	定期点検 業務	(有)石橋修 建築設計室	/	990,000	0	990,000	/	4.10.13 ～ 5.1.13	/	/	下田熱海地 区県立学校 の建築基準 法第12条定 期点検	下田高等 学校
	計	8件	/	30,321,764	704,420	31,026,184	/		/			

委託料に関する調

(令和5年度)  
(令和5年7月31日現在)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
1	(事務関係) 車両管理業務	㈱KSDドライブサポート	円 31,236,000	円 23,364,000	円 0	円 23,364,000	一般	3.4.1 ～ 6.3.31	5.5.31 5.6.30 5.7.31 小計	円 (7,788,000) 649,000 649,000 649,000 1,947,000	本校通学送迎スクールバス2台運転管理	3長期
2	通学バス輸送業務	㈱東海バス伊東営業所	51,204,120	28,551,600	-20,304 4,084,242	32,615,538	一般	3.4.1 ～ 6.3.31	5.5.31 5.6.30 5.7.31 小計	(9,496,896) 1,133,453 1,133,453 1,133,453 3,400,359	伊東分校通学送迎バス1台運行	3長期
3	エレベーター保守点検	三菱電機ビルソリューションズ㈱横浜支社西湘支店	871,200	792,000	0	792,000	随契	5.4.1 ～ 6.3.31	5.5.31 5.6.30 5.7.31 小計	66,000 66,000 66,000 198,000	本校エレベーター保守点検	随契1号(少額)
4	エレベーター保守点検	ジャパンエレベーターサービス神奈川㈱	33,660	33,660	0	33,660	随契	5.4.1 ～ 6.3.31	5.5.31 5.6.30 5.7.31 小計	2,805 2,805 2,805 8,415	伊東分校エレベーター保守点検	随契1号(少額)
5	建築物環境衛生管理業務	東海ビル保善㈱	4,743,860	4,268,550	0	4,268,550	一般	5.4.1 ～ 6.3.31	5.5.31 5.7.31 小計	66,000 66,000 175,450 175,450	本校校舎建築物環境衛生管理	一般
6	給食調理業務	㈱マルヨ	61,325,322	61,270,000	0	61,270,000	不随	2.8.1 ～ 5.7.31	5.5.31 5.6.30 5.7.31 小計	(6,807,776) 1,701,944 1,701,944 1,701,944 5,105,832	本校給食調理、配膳、片付け	2長期
7	給食調理業務	シダックス大新東ヒューマンサービス(株)	65,340,000	49,460,400	0	49,460,400	一般	5.8.1 ～ 8.7.31		(10,991,200)	本校給食調理、配膳、片付け	5長期
8	給食業務委託	㈱レクトン	46,789,226	43,097,901	0	43,097,901	一般	5.4.1 ～ 8.3.31	5.5.31 5.6.30 5.7.31 小計	(14,365,989) 1,197,196 1,197,163 1,197,163 3,591,522	伊東分校給食調理、配膳、片付け	5長期
9	自家用電気工作物保安管理業務委託	(一財)関東電気保安協会沼津事業本部	161,480	161,480	0	161,480	随契	5.4.1 ～ 6.3.31	5.5.31 小計	161,480 161,480	伊東分校自家用電気工作物保安管理業務	随契1号(少額)
10	訪問看護業務委託	合同会社エコー	731,500	731,500	0	731,500	随契	5.4.19 ～ 6.3.31	5.6.14 5.6.30 5.7.31 小計	17,500 65,500 41,500 124,500	伊東分校医療のケア児(中2)支援訪問看護	随契2号(不適)
11	訪問看護業務委託	合同会社エコー	896,500	896,500	0	896,500	随契	5.4.19 ～ 6.3.31	5.6.14 5.6.30 5.7.31 小計	18,000 52,000 57,500 127,500	伊東分校医療のケア児(小4)支援訪問看護	随契2号(不適)
12	訪問看護業務委託	㈱クサガヤ急送	1,272,000	1,272,000	0	1,272,000	随契	5.5.10 ～ 6.3.31	5.6.30 5.7.31 小計	103,500 110,500 214,000	本校医療的ケア児支援訪問看護	随契2号(不適)
13	産廃収集運搬・ク	伊豆総業㈱	85,800	85,800	0	85,800	随契	5.7.11 ～			本校産業廃棄物収集運搬及びKGLI	随契1号

整理 番号	委 託 業務名	受託者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法	契約期間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の内容	摘要
				当初額	変 更 増減額	計						
13	ストラップ 清掃業務	株式会社	85,800	85,800	0	85,800	随契	5.9.29			施設ストラップ 配管清掃	1号 (少額)
14	グリスト ラップ産 廃処分業 務	クリーン サービス(株)	5,500	5,500	0	5,500	随契	5.7.11 ～ 5.9.29			本校グリスト ラップ配管 産業廃棄物 処分	随契 1号 (少額)
15	物品移動 業務委託	日本通運(株) 静岡支店	5,147,610	3,788,389	0	3,788,389	一般	5.7.24 ～ 5.9.1			伊東分校移 転に係る物 品移設	一般
16	産廃収集 運搬・処 分業務	(株)東部処 理	79,200	79,200	0	79,200	随契	5.7.27 ～ 5.12.28			本校産業廃 棄物収集運 搬及び処分	随契 1号 (少額)
17	産廃収集 運搬・処 分業務	(株)フジタ	99,000	99,000	0	99,000	随契	5.7.27 ～ 5.11.30			伊東分校産 業廃棄物収 集運搬及び 処分	随契 1号 (少額)
	事務関係 計	16件	270,021,978	217,957,480	4,063,938	222,021,418				15,054,058		

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
参考1	消防設備等保守点検業務	伊豆防災機器(株)	円	円	円	円	/	5.4.1 ～ 6.3.31	/	円	三島田方地区10校の消防用設備等の機能維持	三島北高等学校
参考2	警備業務	セコム(株)	/	14,256,000	1,108,800	15,364,800	/	1.10.1 ～ 6.9.30	/	/	三島田方地区10校の機械警備	三島北高等学校
参考3	警備業務	東海総合警備保障(株)	/	4,148,760	-404,380 1,580,542	5,324,922	/	1.10.1 ～ 6.9.30	/	/	伊東熱海地区6校の機械警備	(分校)伊東高等学校
参考4	自家用電気工作物保安業務	(株)静岡ケイテクノ	/	1,240,800	0	1,240,800	/	5.4.1 ～ 6.3.31	/	/	三島田方地区4校の自家用電気工作物保安管理	葦山高等学校
参考5	可燃物収集運搬業務	(株)マエダ美化	/	501,400	0	501,400	/	5.4.7 ～ 6.3.29	/	/	三島田方地区4校の可燃物収集運搬業務	葦山高等学校
参考6	プール浄化装置保守点検業務	東伸興産(株)	/	194,700	0	194,700	/	5.4.14 ～ 5.9.29	/	/	三島田方地区8校のプール浄化装置保守	伊豆総合高等学校
参考7	定期点検業務	(有)コーセイ産業	/	1,550,560	0	1,550,560	/	5.7.31 ～ 5.11.30	/	/	三島田方地区県立学校の建築基準法第12条定期点検	伊豆中央高等学校
	計	7件	/	30,254,024	2,284,962	32,538,986	/		/			

## 負担金支出調

(令和4年度)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	甲種防火管理新規資格取得講習受講料	一般財団法人日本防火・防災協会	会 則	防火管理者1人分	円 8,000	4.6.9
2	全国肢体不自由教育教頭研究協議会参加費	全国肢体不自由教育教頭会	開催要項	研究協議会参加費1校分	3,000	4.6.24
3	大仁地区安全運転管理協会会費	大仁地区安全運転管理協会	会 則	安全運転管理者1人分	20,900	4.6.30
4	中部地区特別支援学校肢体不自由教育校長会会費	中部地区特別支援学校肢体不自由教育校長会	規 約	団体負担金年会費1校分	7,000	4.7.8
5	全国特別支援学校肢体不自由教育教頭会会費	全国特別支援学校肢体不自由教育教頭会	規 約	団体負担金年会費1校分	4,500	4.7.29
6	全国特別支援学校肢体不自由教育校長会会費	全国特別支援学校肢体不自由教育校長会	会 則	団体負担金年会費1校分	15,000	4.8.31
7	全国肢体不自由教育研究協議会参加費	全国肢体不自由教育研究協議会	開催要項	研究協議会参加費1校分	3,000	4.9.16
8	安全運転管理者等講習会手数料	静岡県公安委員会	会 則	安全運転管理者1人分	4,500	4.9.28
9	伊東分校給食費負担金	伊東市長	協定書・覚書	給食業務人件費	727,691	5.3.31
計		9件	/	/	793,591	/

## 負担金支出調

(令和5年度)  
(令和5年7月31日現在)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	甲種防火管理新規資格取得講習受講料	一般財団法人日本防火・防災協会	会 則	防火管理者1人分	円 8,000	5.5.23
2	中部地区特別支援学校肢体不自由教育校長会会費	中部地区特別支援学校肢体不自由教育校長会	規 約	団体負担金 年会費1校分	7,000	5.6.23
3	全国肢体不自由教育教頭研究協議会参加費	全国肢体不自由教育教頭会	開催要項	研究協議会 参加費1校分	3,500	5.6.23
4	大仁地区安全運転管理協会会費	大仁地区安全運転管理協会	会 則	安全運転管理者 1人分	20,900	5.6.30
5	全国養護教諭キャリアアップ研修会参加費	全国特別支援学校養護教諭キャリアアップ研究会	開催要項	養護教諭1人分	4,000	5.7.7
6	医療的ケア教員講習会受講料	社会福祉法人聖隷福祉事業団	開催要項	自立活動担当教諭 1人分	16,500	5.7.7
7	全国肢体不自由教育教頭研究協議会参加費	全国肢体不自由教育教頭会	開催要項	研究協議会 参加費1校分	4,500	5.7.31
計		7件	/	/	64,400	/

空 白

# 建 築 工

参考

整理 番号	予算科目	工事名	工事 箇所	当初 設計金額	契約金額			契約 締結 方法
					当初額	変更増減額	計	
1	教育管理費	東部特別支 援学校体育 館空調設備 設置工事	伊豆の国 市寺家地 内	円 17,138,000	円 16,500,000	円 1,342,000	円 17,842,000	一般
		合 計	1件	17,138,000	16,500,000	1,342,000	17,842,000	

令和5年度 該当なし



# 事 調

(令和4年度)

受注者	着手 完成(予定) 年 月 日	支出済額	工事概要	公有財 産台帳	摘 要
(株) 井戸松	R4. 6. 15  R4. 12. 20	円  17,842,000	体育館の空調設置	有	本庁経理 設備課 教育委員会から 再配当
		17,842,000			

# 公 有 財 産 調

(令和4年度)

区分	令和4年3月31日 現在		増		減		令和5年3月31日 現在		摘要
	数量又は面積	台帳 価 格	数量又は面積	台帳 価 格	数量又は面積	台帳 価 格	数量又は面積	台帳 価 格	
行政財産	/	千円 3,309,682	/	千円 45,259	/	千円 130,392	/	千円 3,224,549	
土 地	17,864.42㎡	247,633					17,864.42㎡	247,633	
立木竹	408本	875					408本	875	
建 物	7,308.55㎡ 9,600.80㎡	2,688,962				92,345	7,308.55㎡ 9,600.80㎡	2,596,617	
工作物	80個	372,212	12	45,259		38,047	92個	379,424	
普通財産	/	53,930	/		/	18,813	/	35,117	
土 地	491.37㎡	26,885					491.37㎡	26,885	
立木竹	0本	0					0本	0	
建 物	1180.46㎡ 1869.11㎡	22,855	13.22㎡ 10.02㎡		1,101.67㎡ 1,718.75㎡	14,623	92.01㎡ 160.38㎡	8,232	
工作物	17個	4,190			14	4,190	3個	0	
公有財産に 準ずるもの	/	453.9	/		/		/	453.9	
電話加入権	7件	453.9					7件	453.9	

# 公 有 財 産 調

(令和5年度)

(令和5年7月31日現在)

区分	令和5年3月31日 現在		増		減		令和5年7月31日 現在		摘要
	数量又は面積	台帳 価 格	数量又は面積	台帳 価 格	数量又は面積	台帳 価 格	数量又は面積	台帳 価 格	
行政財産	/	千円 3,224,549	/	千円 0	/	千円 61,027	/	千円 3,163,522	
土 地	17,864.42㎡	247,633					17,864.42㎡	247,633	
立木竹	408本	875					408本	875	
建 物	7,308.55㎡ 9,600.80㎡	2,596,617			520.16㎡ 520.16㎡	51,251	6,788.39㎡ 9,080.64㎡	2,545,366	
工作物	92個	379,424			4	9,776	88個	369,648	
普通財産	/	35,117	/		/		/	35,117	
土 地	491.37㎡	26,885					491.37㎡	26,885	
立木竹	0本	0					0本	0	
建 物	92.01㎡ 160.38㎡	8,232					92.01㎡ 160.38㎡	8,232	
工作物	3個	0					3個	0	
公有財産に 準ずるもの	/	453.9	/		/		/	453.9	
電話加入権	7件	453.9					7件	453.9	

借 地 借 家 等 調

(令和5年7月31日現在)

整理 番号	区分	種 別	所在地	地目		数量又 は面積	借料		契 約 期 間	所有者又 は契約者 氏名	用途
				台帳	現況		単価	年額			
1	建物	事務所建	伊東市幸町 1-5			建 484.00 延 800.00		免除	31.4.1 ～ 6.3.31	伊東市教育委 員会教育長	(伊東分校) 普通教室等
2	建物	事務所建	伊東市吉田 748-1			建1,639.97 延1,639.97		免除	5.4.1 ～ 6.3.31	静岡県立伊豆 伊東高等学校 長	(伊豆高原分 校) 普通教室 等
	計					建 2,123,97 延 2,439.97		0			

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和5年7月31日現在)

区 分	事業名又は契約名	内 容	契約額							
				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
長期継続 契約	電子複写機賃貸借及び使用契約	電子複写機 4台 (契約日) 2. 4. 1	2,737,520	670,718	516,700	516,700	516,701	516,701		
	本校給食調理(配缶・配膳)業務委託契約	給食調理・配缶・配膳及び再調理 (契約日) 2. 7. 28	61,270,000	13,615,568	20,423,328	20,423,328	6,807,776			
	本校給食調理(配缶・配膳)業務委託契約	給食調理・配缶・配膳及び再調理 (契約日) 5. 7. 28								
	伊東分校給食調理(配缶・配膳)業務委託契約	給食調理・配缶・配膳及び再調理 (契約日) 5. 4. 1								
	スクールバス運行管理業務委託契約	通学の送迎及び校外活動の送迎 (契約日) 3. 4. 1	23,364,000		7,788,000	7,788,000	7,788,000			
	伊東分校通学バス輸送業務委託契約	通学の送迎及び校外活動の送迎 (契約日) 3. 4. 1	28,531,296		9,496,896	9,517,200	9,517,200			

行政財産貸付・使用許可調

(令和5年7月31日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地目		数量又 は面積	貸付料又は 使用料		貸付又は 使用許可 期 間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸付・使 用許可目 的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	学校 敷地	伊豆の国市 寺家246番1	学校 用地	学校 敷地	建物 3.82㎡ 土地 0.01㎡		免除	2.4.1～ 7.3.31	伊豆の国市長	防災無線 半固定局 及びアン テナ設置
合計								0			

普通財産・借受財産等貸付調

(令和5年7月31日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地目		数量又 は面積	貸付料又は 使用料		貸付又は 使用許可 期 間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸付・使 用許可目 的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	宅地	伊豆の国市 小坂512-2	職員 住宅	宅地	1本	1,500	円 1,500	3.4.1～ 6.3.31	東京電力パワーグリ ッド(株)伊豆支社長	電気事業 用電柱設 置
合計								1,500			

## 職員公舎管理状況調

(令和5年7月31日現在)

整理 番号	所在地	建築 年月	構造	管理戸(室) 数 (A)	入居戸(室) 数 (B)	Bの内他事 務所職員入 居戸(室)数	空屋戸(室)数 (A-B)	摘 要
1	伊豆の国市 小坂512-2	S59.3	RC2F 1棟	4	0	0	4	
	計	/	/	4	0	0	4	

空家年月日 ① H20.10.1 ② H22.4.1 ③ H31.2.1 ④ R1.6.10 計4戸

主 要 備 品 調

(令和5年7月31日現在)

整理 番号	区 分		品名・規格	利用状況	購入年月	購入金額
	大・中	小				
1	1-13	加熱器具	コンビオーブン	年間190日 本校給食調理作業に使用	平成30年7月	2,348,676
2	1-13	その他の厨房器具	真空冷却器	年間190日 本校給食調理作業に使用	平成30年7月	2,127,924
3	10-07	鍵盤楽器	グランドピアノ ヤマハC3自動演奏付	年間20日 本校授業等に使用	平成9年3月	2,076,480
4	01-13	食品食器洗浄機	食器洗浄機	年間190日 本校給食調理作業に使用	平成30年7月	2,072,196
5	02-01	パーソナルコンピュータ(一式)	ICT環境整備機器(一式)	毎日(年間200日) 本校パソコン教室パソコン処理	令和2年1月	1,744,270
6	01-13	冷蔵(凍)庫	パススルー冷蔵庫	年間190日 本校給食調理作業に使用	平成30年7月	1,545,912
7	01-13	加熱器具	ガス回転釜	年間190日 本校給食調理作業に使用	平成30年7月	1,447,956
8	01-13	加熱器具	ガス回転釜	年間190日 本校給食調理作業に使用	平成30年7月	1,421,928
9	02-01	パーソナルコンピュータ(一式)	パーソナルコンピュータ(一式)	毎日(年間200日) 伊豆高原分校パソコン教室パソコン処理	平成27年3月	1,388,664
10	01-04	金庫	耐火金庫 コクヨES-52MBF1	毎日(年間365日) 本校永年保存文書保管他	平成10年3月	1,252,230
11	01-14	エアコンディショナー	エアコンディショナー ダイキンSMZHYP160D	夏季・冬季(年間100日) 伊豆高原分校職員室冷暖房用に使用	平成14年3月	1,207,500
12	01-14	エアコンディショナー	エアコンディショナー ダイキンSMZHYP160D	夏季・冬季(年間100日) 伊豆高原分校職員室冷暖房用に使用	平成14年3月	1,207,500
13	01-99	その他の庁用器具	暗幕 W2.4*H2.8*2*9箇所	毎日(年間200日) 伊豆高原分校体育館で使用	令和5年3月	1,160,500
14	01-13	食品食器洗浄機	食缶消毒保管機	年間190日 本校給食調理作業に使用	平成30年7月	1,151,777
15	02-01	パーソナルコンピュータ(一式)	パーソナルコンピュータ(一式)	毎日(年間200日) 伊東分校パソコン教室パソコン処理	平成28年3月	1,101,600
16	01-13	食品食器洗浄機	食缶等消毒保管機	年間190日 本校給食調理作業に使用	平成30年7月	1,065,420
17	10-99	その他の教育用器具	電気式陶芸窯	年間20回(60日) 伊豆高原分校作業学習に使用	平成30年10月	1,015,200
18	01-13	冷蔵(凍)庫	冷蔵庫	年間190日 本校給食調理作業に使用	平成30年7月	884,790
19	10-99	その他の教育用器具	木製校歌額	毎日(年間200日) 本校体育館に掲示	令和3年1月	869,000
20	06-99	その他の諸機器	次亜塩素酸水生成器	週3日(年間120日) 本校消毒作業に使用	令和2年11月	773,300
21	01-13	冷蔵(凍)庫	牛乳用冷蔵庫	年間190日 本校給食牛乳保管に使用	平成30年7月	760,257



職 員 調

(令和5年7月31日現在)

本校

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数		摘要
					年	月	
1	校長	長崎 良夫	総括	□□□	□	□	□□□
2	副校長	田淵 尚子	本校総括	□□□	□	□	□□□
3	教頭	佐藤 公平	本校統括補佐	□□□	□	□	□□□
4	事務長	加藤 等	事務部総括	□□□	□	□	□□□
5	教諭	小林 暉長	小学部主事	□□□	□	□	□□□
6	教諭	福井 照子	小学部1年	□□□	□	□	□□□
7	教諭	藤原 茜	小学部1年	□□□	□	□	□□□
8	教諭	石井 淳子	小学部1年	□□□	□	□	□□□
9	教諭	久保田 智子	小学部2年	□□□	□	□	□□□
10	教諭	田村 彩乃	小学部2年	□□□	□	□	□□□
11	教諭	藤野 美穂	小学部2年	□□□	□	□	□□□
12	自立活動教諭	中野 千恵美	小学部2年	□□□	□	□	□□□
13	教諭	佐藤 久美子	小学部4年	□□□	□	□	□□□
14	教諭	三島 智史	小学部4年	□□□	□	□	□□□
15	教諭	山田 達也	小学部4年	□□□	□	□	□□□
16	教諭	長澤 史佳	小学部4年	□□□	□	□	□□□
17	教諭	小見 南々子	小学部4年	□□□	□	□	□□□
18	教諭	林 輝彦	小学部5年	□□□	□	□	□□□
19	教諭	高橋 梨那	小学部5年	□□□	□	□	□□□
20	教諭	菊場 浩司	小学部5年	□□□	□	□	□□□
21	教諭	手塚 ふみ	小学部5年	□□□	□	□	□□□
22	教諭	櫻井 茜寧	小学部5年	□□□	□	□	□□□
23	教諭	山本 翔平	小学部6年	□□□	□	□	□□□
24	教諭	中嶋 沙織	小学部6年	□□□	□	□	□□□
25	教諭	鷺尾 大吾	小学部6年	□□□	□	□	□□□
26	教諭	大庭 雅史	小学部6年	□□□	□	□	□□□
27	教諭	山田 美智枝	小学部級外	□□□	□	□	□□□
28	教諭	稲葉 修	中学部主事	□□□	□	□	□□□
29	教諭	山岸 樹	中学部1年	□□□	□	□	□□□
30	教諭	小川 龍太郎	中学部1年	□□□	□	□	□□□
31	教諭	鈴木 ゆうか	中学部1年	□□□	□	□	□□□
32	教諭	野田 芳宏	中学部1年	□□□	□	□	□□□
33	教諭	横澤 美保	中学部2年	□□□	□	□	□□□
34	教諭	後藤 佑美	中学部2年	□□□	□	□	□□□
35	教諭	内野 愛	中学部2年	□□□	□	□	□□□
36	教諭	植田 康煩	中学部2年	□□□	□	□	□□□
37	教諭	伊藤 嵩人	中学部2年	□□□	□	□	□□□
38	教諭	加藤 佳奈	中学部3年	□□□	□	□	□□□
39	教諭	平澤 明歩	中学部3年	□□□	□	□	□□□
40	教諭	井上 恵里	中学部3年	□□□	□	□	□□□
41	教諭	芹澤 光博	中学部3年	□□□	□	□	□□□
42	教諭	井上 莉菜	中学部3年	□□□	□	□	□□□
43	教諭	山中 美世	中学部3年	□□□	□	□	□□□
44	教諭	村田 悠夏	中学部3年	□□□	□	□	□□□
45	教諭	西村 雄一	高等部主事	□□□	□	□	□□□
46	教諭	星谷 出	高等部1年	□□□	□	□	□□□
47	教諭	木戸 美矢子	高等部1年	□□□	□	□	□□□
48	教諭	江川 絢子	高等部1年	□□□	□	□	□□□
49	教諭	大房 高代	高等部1年	□□□	□	□	□□□
50	教諭	赤木 祐太	高等部1年	□□□	□	□	□□□
51	教諭	永澤 真理子	高等部1年	□□□	□	□	□□□
52	教諭	加藤 孝雄	高等部1年	□□□	□	□	□□□

53	教諭	武田 美佐子	高等部 2年	□□□	□ □	□□□
54	教諭	宮澤 浩介	高等部 2年	□□□	□ □	□□□
55	教諭	佐藤 幸恵	高等部 2年	□□□	□ □	□□□
56	教諭	井上 久美子	高等部 2年	□□□	□ □	□□□
57	教諭	芹澤 由香里	高等部 2年	□□□	□ □	□□□
58	教諭	勝村 えり香	高等部 2年	□□□	□ □	□□□
59	教諭	森 真凜	高等部 2年	□□□	□ □	□□□
60	教諭	鈴木 雅久	高等部 2年	□□□	□ □	□□□
61	教諭	渡邊 奈緒美	高等部 3年	□□□	□ □	□□□
62	教諭	岩崎 圭佑	高等部 3年	□□□	□ □	□□□
63	教諭	芦澤 正也	高等部 3年	□□□	□ □	□□□
64	教諭	平松 なおこ	高等部 3年	□□□	□ □	□□□
65	教諭	伊藤 英樹	高等部 3年	□□□	□ □	□□□
66	教諭	清水 恵美子	高等部 3年	□□□	□ □	□□□
67	教諭	神保 くるみ	高等部 3年	□□□	□ □	□□□
68	教諭	齋田 祐亮	高等部級外	□□□	□ □	□□□
69	教諭	鈴木 真寿美	高等部級外	□□□	□ □	□□□
70	教諭	長島 涼子	高等部級外	□□□	□ □	□□□
71	教諭	木下 哲宏	高等部級外	□□□	□ □	□□□
72	教諭	田中 千恵	訪問主任	□□□	□ □	□□□
73	教諭	室伏 恵	訪問	□□□	□ □	□□□
74	教諭	太田 つきみ	育休 (小学部)	□□□	□ □	□□□
75	教諭	木田 結衣	育休 (小学部)	□□□	□ □	□□□
76	教諭	大島 彩香	育休 (小学部)	□□□	□ □	□□□
77	教諭	瀧口 珠代	育休 (訪問)	□□□	□ □	□□□
78	養護教諭	飯塚 操	養護	□□□	□ □	□□□
79	養護教諭	小林 宏美	養護	□□□	□ □	□□□
80	栄養教諭	繁田 晃子	給食	□□□	□ □	□□□
81	主査	吉村 亜矢子	支出・給与	□□□	□ □	□□□
82	主任	杉山 志帆	休職(私傷病)	□□□	□ □	□□□
83	主任	田内 杏子	産休	□□□	□ □	□□□
84	技能長	室伏 善行	環境整備	□□□	□ □	□□□
				□□□	□ □	□□□

## 付記

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数		摘要
					年	月	
1	教諭(任)	前島 裕乃	高等部1年	□□□	□	□	□□□
2	教諭(任)	原 華子	小学部3年	□□□	□	□	□□□
3	教諭(任)	土屋 美奈	小学部6年	□□□	□	□	□□□
4	教諭(任)	大野 綾花	小学部6年	□□□	□	□	□□□
5	教諭(任)	太田 恵理子	訪問	□□□	□	□	□□□
6	教諭(任)	山口 絵里	訪問	□□□	□	□	□□□
7	教諭(臨)	富永 悦子	中学部1年	□□□	□	□	□□□
8	教諭(臨)	長谷川 祐	高等部2年	□□□	□	□	□□□
9	主事(臨)	小竹 友美	人事服務	□□□	□	□	□□□
10	医療的ケア看護職員	小林 光代	医療的ケア	□□□	□	□	□□□
11	医療的ケア看護職員	稲葉 能美	医療的ケア	□□□	□	□	□□□
12	医療的ケア看護職員	新谷 真澄	医療的ケア	□□□	□	□	□□□
13	医療的ケア看護職員	鈴木 侑子	医療的ケア	□□□	□	□	□□□
14	医療的ケア看護職員	矢弓 遥	医療的ケア	□□□	□	□	□□□
15	医療的ケア看護職員	中村 万里子	医療的ケア	□□□	□	□	□□□
16	医療的ケア看護職員	阿部 一澄	医療的ケア	□□□	□	□	□□□
17	医療的ケア看護職員	青木 孝子	医療的ケア	□□□	□	□	□□□
18	医療的ケア看護職員	大塚 恭子	医療的ケア	□□□	□	□	□□□
19	非常勤労務職員	山下 弘美	用務	□□□	□	□	□□□
20	非常勤労務職員	濱口 美香	校内介助	□□□	□	□	□□□
21	非常勤労務職員	長谷川 ゆかり	校内介助	□□□	□	□	□□□
22	非常勤労務職員	小澤 久美子	校内介助	□□□	□	□	□□□
23	非常勤労務職員	堀内 よしの	校内介助	□□□	□	□	□□□
24	非常勤労務職員	前田 哉美	スクールバス介助	□□□	□	□	□□□
25	非常勤労務職員	佐々木 妙子	スクールバス介助	□□□	□	□	□□□
26	非常勤労務職員	内田 晶士	コロナ対策業務スタッフ	□□□	□	□	□□□
27	非常勤労務職員	西島 恵津子	コロナ対策業務スタッフ	□□□	□	□	□□□
28	非常勤嘱託員	杉山 美香	事務補助	□□□	□	□	□□□
29	心理専門員	白鳥 志保	スクールカウンセラー	□□□	□	□	□□□
30	学校医	渡邊 誠司	内科	□□□	□	□	□□□
31	学校医	太田 俊彦	眼科	□□□	□	□	□□□
32	学校医	田中 幹夫	耳鼻科	□□□	□	□	□□□
33	学校医	堀江 伴英	歯科	□□□	□	□	□□□
34	学校薬剤師	秋山 和久	薬剤師	□□□	□	□	□□□

## 伊東分校

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数		摘 要
					年	月	
1	副校長	竹居 寛信	分校総括	□□□	□	□	□□□
2	教諭	田中 智子	小学部主事	□□□	□	□	□□□
3	教諭	湯川 有貴	小学部 1年	□□□	□	□	□□□
4	教諭	勝田 友美	小学部 1年	□□□	□	□	□□□
5	教諭	高塚 明子	小学部 2年	□□□	□	□	□□□
6	教諭	加田 翔大	小学部 2年	□□□	□	□	□□□
7	教諭	内山 莉沙	小学部 2年	□□□	□	□	□□□
8	教諭	安井 義成	小学部 3年	□□□	□	□	□□□
9	教諭	加賀屋 三奈	小学部 3年	□□□	□	□	□□□
10	教諭	坂倉 麗士	小学部 4年	□□□	□	□	□□□
11	教諭	滝野 有紀子	小学部 4年	□□□	□	□	□□□
12	教諭	吉間 三貴子	小学部 4年	□□□	□	□	□□□
13	教諭	田中 綾乃	小学部 4年	□□□	□	□	□□□
14	教諭	内田 敦美	小学部 5年	□□□	□	□	□□□
15	教諭	片岡 真悠	小学部 5年	□□□	□	□	□□□
16	教諭	室野 亜美	小学部級外	□□□	□	□	□□□
17	教諭	神戸 正輝	小学部級外	□□□	□	□	□□□
18	教諭	千葉 俊和	中学部主事	□□□	□	□	□□□
19	教諭	小林 奈美佳	中学部 1年	□□□	□	□	□□□
20	教諭	内田 香津子	中学部 2年	□□□	□	□	□□□
21	教諭	佐野 寛征	中学部 2年	□□□	□	□	□□□
22	教諭	前田 裕子	中学部 3年	□□□	□	□	□□□
23	教諭	遠藤 麻衣子	中学部 2年	□□□	□	□	□□□
24	教諭	佐藤 陽子	育休 (小学部)	□□□	□	□	□□□
25	教諭	稲葉 芽衣子	育休 (小学部)	□□□	□	□	□□□
26	教諭	齋藤 稔	育休 (中学部)	□□□	□	□	□□□
27	養護教諭	武藤 冴英	養護	□□□	□	□	□□□
28	栄養教諭	佐々木 弥生子	給食	□□□	□	□	□□□
29	主査	新美 貴弘	事務	□□□	□	□	□□□
30	主任	勝山 悠介	事務	□□□	□	□	□□□
平均年数					□	□	

付記

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数		摘 要
					年	月	
1	教諭(任)	岡本 秀美	小学部 6年	□□□	□	□	□□□
2	教諭(任)	稲葉 祐真	小学部 6年	□□□	□	□	□□□
3	教諭(任)	土橋 和希	中学部 3年	□□□	□	□	□□□
4	教諭(臨)	梅本 麻衣	小学部 1年	□□□	□	□	□□□
5	教諭(臨)	小林 千尋	小学部 4年	□□□	□	□	□□□
6	教諭(臨)	大川 直子	中学部 1年	□□□	□	□	□□□
7	教諭(臨)	三田 彩乃	小学部 6年	□□□	□	□	□□□
8	教諭(臨)	鳴海 真奈美	中学部 3年	□□□	□	□	□□□
9	教諭(臨)	宮永 暉琉	中学部 2年	□□□	□	□	□□□
10	非常勤講師	道下 恭子	初任研指導対応	□□□	□	□	□□□
11	医療的ケア 看護職員	佐野 千恵子	医療的ケア	□□□	□	□	□□□
12	非常勤 労務職員	鈴木 恵子	用務	□□□	□	□	□□□
13	非常勤 労務職員	古市 健	用務	□□□	□	□	□□□
14	非常勤 労務職員	山本 裕子	スクールバス 介助	□□□	□	□	□□□
15	非常勤 労務職員	木部 佳子	スクールバス 介助	□□□	□	□	□□□
16	非常勤 労務職員	森野 美枝	コロナ対策 業務スタッフ	□□□	□	□	□□□
17	非常勤 労務職員	岩崎 春香	コロナ対策 業務スタッフ	□□□	□	□	□□□
18	非常勤嘱託員	飯田 恭子	栄養教諭補助	□□□	□	□	□□□
19	学校医	松尾 博道	内科	□□□	□	□	□□□
20	学校医	芥川 泰生	眼科	□□□	□	□	□□□
21	学校医	藤井 まゆみ	耳鼻科	□□□	□	□	□□□
22	学校医	仁田 直嗣	歯科	□□□	□	□	□□□
23	学校薬剤師	岡 かよ子	薬剤師	□□□	□	□	□□□

## 伊豆高原分校

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数		摘 要
					年	月	
1	教頭	増井 孝弘	分校総括	□□□	□	□	□□□
2	教諭	村山 理恵	高等部1年	□□□	□	□	□□□
3	教諭	板橋 祐子	高等部1年	□□□	□	□	□□□
4	教諭	小松 真理	高等部主事	□□□	□	□	□□□
5	教諭	神戸 あい	高等部1年	□□□	□	□	□□□
6	教諭	本村 邦彦	高等部1年	□□□	□	□	□□□
7	教諭	成生 はずき	高等部1年	□□□	□	□	□□□
8	教諭	土屋 日早子	高等部2年	□□□	□	□	□□□
9	教諭	青木 恭美	高等部2年	□□□	□	□	□□□
10	教諭	大沼 真呼	高等部2年	□□□	□	□	□□□
11	教諭	額田 悠希	高等部2年	□□□	□	□	□□□
12	教諭	石和 真実	高等部2年	□□□	□	□	□□□
13	教諭	近藤 悠太	高等部3年	□□□	□	□	□□□
14	教諭	八木 治郎	高等部3年	□□□	□	□	□□□
15	教諭	小川 いづ子	高等部3年	□□□	□	□	□□□
16	教諭	小宮 有咲美	高等部3年	□□□	□	□	□□□
17	教諭	加藤 裕暉	高等部3年	□□□	□	□	□□□
18	教諭	永澤 洋	高等部級外	□□□	□	□	□□□
19	教諭	佐藤 弘康	高等部級外	□□□	□	□	□□□
20	教諭	橋本 悟	高等部級外	□□□	□	□	□□□
21	教諭	細村 江梨香	育休(高等部)	□□□	□	□	□□□
22	主任	鈴木 桂介	事務	□□□	□	□	□□□
平均年数					□	□	

## 付記

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数		摘 要
					年	月	
1	教諭(臨)	臼井 りえ	高等部1年	□□□	□	□	□□□
2	教諭(臨)	小川 悟	高等部2年	□□□	□	□	□□□
3	教諭(任)	戸塚 里美	高等部3年	□□□	□	□	□□□
4	養護教諭(任)	小川 由美恵	養護	□□□	□	□	□□□
5	医療のケア 看護職員	鈴木 春菜	医療のケア	□□□	□	□	□□□
6	非常勤 労務職員	瀬戸 世津子	用務	□□□	□	□	□□□
7	学校医	松尾 博道	内科	□□□	□	□	□□□
8	学校医	芥川 泰生	眼科	□□□	□	□	□□□
9	学校医	藤井 まゆみ	耳鼻科	□□□	□	□	□□□
10	学校医	板倉 和彦	歯科	□□□	□	□	□□□
11	学校薬剤師	西宮 仁美	薬剤師	□□□	□	□	□□□

## 職 員 の 年 齢 調

(令和5年7月31日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20 歳 未 満	0 人	
20 歳以上 30 歳未満	24 人	
30 歳以上 40 歳未満	37 人	
40 歳以上 50 歳未満	41 人	
50 歳以上 56 歳未満	11 人	
56 歳以上 61 歳未満	19 人	うち再任用 1 人
61 歳 以 上	4 人	うち再任用 4 人
計	136 人	平均年齢 41 歳 7 月

## 健康管理

### 1 令和4年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 135人
	職員数 140人
受 診 率	100%
県平均受診率	100%

(1) 未受診の理由

4人

1人

(注) 1 前年度末日現在在籍している職員について記載する。

2 受診率算定に当たっては、休職・特休中、育休・産休・妊娠中、治療中及び海外派遣中等の職員は、算定の対象から除く。

### 2 令和5年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人数(人)
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	
B 2		要経過観察	
C 1	勤務をほぼ平常に行っており、症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	3 (3)
C 2		要経過観察	3 (3)
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療	19 (19)
D 2		要経過観察	37 (37)
D 3		医 療 不 要	65 (65)
区 分 者 計			127 (127)
未区分者数			9
合 計			136

(1) 管理区分A～C 2該当者に対する措置状況  
該当なし

(2) 未区分の理由

ア 産休・育休 人

イ 新規採用 人

ウ 自己都合による未受診 人

エ その他

(特別休暇) 人

(休職) 人